

2019 年度

仙台徳洲看護専門学校 シラバス

# 目次

基礎分野	3
専門基礎分野	17
専門分野Ⅰ	35
専門分野Ⅱ	49
成人看護学	49
老年看護学	54
小児看護学	60
母性看護学	66
精神看護学	71
統合分野	75
在宅看護論	75
看護の統合と実践	80
臨地実習	86

基礎分野			
科目名	基礎科学（生物・物理・化学）	必修	担当者 加藤 和雄・亀田 卓 大島 吉輝・菊地 晴久
年次・開講時期	1年次・前期	時間数／単位数／授業回数	60時間／2単位／30回
		授業の種類	講義 ・ 演習
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt; 看護を学ぶ上の科学的な視点を養う基礎として生物、物理、化学を各 20 時間教授する。</p> <p>&lt;達成目標&gt; 生物：生命体に共通する構造や機能などの基本を学び、人間の生命現象を理解し、生命の尊厳を守ることの価値を高める。 物理：自然現象の基礎理論を理解し、人間の動作や機械操作、医療技術に応用されている物理的知識を習得する。 化学：自然の中で起きている化学反応について理解を深め、生命現象および医療、看護に用いられる有機化学反応についての基礎知識を習得する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	生物 1. 生命の起源と進化	一斉講義 実験	
2	2. 生体の現象の科学		
3	3. 細胞の構造と機能		
4	4. 生殖、発生、分化、加齢		
5	5. 遺伝情報の構造と機能		
6	6. 個体の調整		
7	7. 刺激の受容と行動		
8	8. 動物の生理		
9	9. 生物と環境		
10	10. 地球環境とヒトの未来 試験		
1・2	物理 1. 力とつりあい	一斉講義 実験	
3・4	2. 波（振動、音、光）、熱		
5・6	3. 物体の運動		
7・8	4. 電気、磁気		
9	5. 原子と放射線		
10	6. 身体、検査、治療と物理学 試験		

1	化学 1. 原始の姿	一斉講義 実験		
2	2. 化学結合			
3	3. 化学物質とからだ			
6	4. からだの中の水、化学反応			
7~9	5. 糖・脂質・たんぱく質の化学構造と機能			
10	試験			
使用テキスト			評価方法	
<b>【テキスト】</b> 系統看護学講座 基礎分野「生物学」 医学書院 系統看護学講座 基礎分野「物理学」 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野「生化学」 医学書院 <b>【参考書】</b> 「看護系で役立つ化学の基本」 化学同人			1. 筆記試験 2. レポート 3. 授業中の小テスト	

基礎分野				
科目名 情報科学		必修	担当者 小田 隆史	
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
1年次・後期		30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習	
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>看護専門職者として自らの専門的能力を発展させていくことができる力量を養う。 教員の指導を得ながら、それまでの学習経験、既存の看護情報の探索、看護理論などに照らして、看護に関する関心テーマを自ら探究する。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>看護における情報科学について学び、併せてコンピューターについて理解する。</p>				
授業回数	授業内容	教授方法	備考	
1・2	1. 情報科学の基礎 1) 情報処理 2) コンピューターの概要	一斉講義		
3・4	2. 情報活用の倫理	演習		
5・6	3. 情報発信の方法			
7～10	4. プレゼンテーション方法			
11	5. 統計学の基礎			
12	6. 基礎統計による情報分析			
13	7. 文献検索			
14	8. 医療とコンピューター			
15	試験・まとめ			
使用テキスト			評価方法	
<p>【テキスト】</p> <p>系統看護学講座 別巻「看護情報学」 医学書院</p> <p>【参考書】</p> <p>適宜紹介</p>			<p>1. 筆記試験</p> <p>2. 演習レポート</p>	

基礎分野			
科目名 哲学		必修	担当者 徳田 幸雄
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
2年次・前期		30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習
授業の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>「人間とは?」「人間の生きる意味、死の意味は?」など、人類史、哲学、宗教などから考える。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>人間の生きる意味を問い、人間のあり方について思索を深めるとともに広い視野に立ったものの見方、考え方を養う。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1 2～5 6～12 13～14 15	1. 人類史と哲学 2. 古代ギリシャの人間観と死生観 ソクラテス プラトン アリストテレス 3. 中世（諸宗教）における人間観と死生観 ユダヤ教 キリスト教 イスラーム 仏教 4. 近代における人間観と死生観 試験・まとめ	一斉講義 演習	
使用テキスト		評価方法	
<b>【テキスト】</b> プリント  <b>【参考書】</b> 適宜紹介		1. 筆記試験	

基礎分野			
科目名 心理学		必修	担当者 渡邊 兼行
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
1年次・前期		30時間／1単位／15回	講義・演習
授業の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>人間の行動の特性、個人の成長発達過程における心理的变化、ライフイベントなど生活環境の変化や疾病や健康障害など体内環境の変化がもたらす心理的变化を学び、これを基礎として臨床心理学および主なカウンセリングの理論、心理学の理論を医療安全にどのように適応するかを具体的に学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>看護の対象である人間を理解するために人間の心理や行動の基礎である原理を学び、自己および対象を客観的に理解するための基礎的知識を学ぶ。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1・2 3 4 5 6 7 8 9 10 11・12 13・14 15	1. ガイダンス、心理学とは 2. 感覚と知覚 3. 動機づけと情動 4. 学習 5. 記憶 6. 認知 7. 心の発達 8. 知能とその測定 9. 性格とその測定 10. ストレスと心の障害 11. 心理療法とカウンセリング 12. 社会と心①社会的認知 13. 社会と心②状況の力 試験・まとめ	一斉講義 演習	
使用テキスト		評価方法	
【テキスト】 系統看護学講座 基礎分野「心理学」 医学書院 【参考書】 適宜紹介		1. 筆記試験	

基礎分野			
科目名 教育学		必修	担当者 田端 健人
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
2年次・前期		15時間／1単位／8回	講義
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt; 教育の本質と方法を学び、健康教育の基礎および生涯学習者としての基礎を学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt; 教育の本質と方法を学び、人の社会生活における役割と教育機能の関係及び看護活動における教育的機能を効果的に果たせる能力を養う。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	1. 教育とは	一斉講義	
2	2. 学校教育制度と教育政策の変遷		
3	3. 社会教育と生涯学習		
4	4. 家庭教育		
5・6	5. 看護と教育 1) 健康教育 2) 発達と教育		
7	6. 現代教育の諸問題		
8	試験		
使用テキスト			
【テキスト】 プリント 【参考書】 適宜紹介		1. 筆記試験	



基礎分野			
科目名 社会学		必修	担当者 高橋 満
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
2年次・前期		30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習
授業の概要と達成目標 <概要> 家族、地域など組織社会の成り立ち、特徴、集団の中に生きる個人のありようについて学ぶ。 <達成目標> 社会的存在として人間及び現代の家族の実態と家族の機能を理解する。			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1・2 3・4 5・6 7・8 9～12 13・14 15	1. 市民社会成立と組織 2. 人間集団の特性 3. 企業、地域、家族の構成と機能 4. 個人と組織 5. 家族の機能と変容 1) 核家族化 2) 夫婦関係 3) 親子関係 4) 高齢化と家族 6. ジェンダー  試験	一斉講義 演習	
使用テキスト		評価方法	
【テキスト】 プリント 【参考書】 適宜紹介		1. 筆記試験	

基礎分野			
科目名 人間関係とコミュニケーション		必修	担当者 江崎 浩明
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
1年次・前期		30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt; 自らの体験をとおして人間集団における相互関係のありようをみつめ、援助関係の成立とコミュニケーションを学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt; 人間関係を円滑に保つ技法について学び、自己理解と良好な対人関係について理解を深め、看護職になるための基礎を図る。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1～2 3 4～5 6 7 8 9 10～11 12～13 14 15	1. 自我と自己 2. 対人認知 3. 対人魅力・対人別離 4. 態度と態度変容 5. 説得的コミュニケーション 6. 偏見と差別 7. 怒りと悲しみ 8. ストレスとストレスマネジメント 9. 人間関係スキル 10. 聴くスキル  試験	一斉講義 演習	
使用テキスト		評価方法	
<b>【テキスト】</b> プリント <b>【参考書】</b> 適宜紹介		1. 筆記試験	

基礎分野			
科目名 スポーツと健康科学		必修	担当者 星 由華里
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
1年次・前期		30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;          体育理論を学び、自らの体験を通して健康維持、増進の方法に応用できる基礎を学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;          健康づくりに関わる基礎知識を学び、運動実践を通して健全な精神発達と体力向上を目指す。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1・2 3～5 6～9 10～13 14 15	1. 身体活動指針と運動による心理社会的効果 2. 体力測定 3. 運動種目とその特徴 4. 健康づくりのためのトレーニング原則と運動プログラム 5. 運動生理学  試験	一斉講義 実技	
使用テキスト		評価方法	
<b>【テキスト】</b> プリント <b>【参考書】</b>		1. 筆記試験 2. 実技試験	

基礎分野			
科目名 英語 I		必修	担当者 バックレイ・フージャ
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
1年次・前期		30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>医療・看護の現場で英語を使ってコミュニケーションをするための必須表現を学び、患者の症状や病歴を尋ねたり、患者のニーズに対応するロールプレイングを通して、実践的な英語力を育む。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>グローバル化する医療現場における看護師の特殊な英語教育の必要性に応じ、外国人患者への的確な対応など、将来現場に必要な英語力を身につける。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1・2 3～9 10～14 15	1. 文法 2. 挨拶と場所の説明に関する会話 3. 問診時の会話 試験	一斉講義 演習	
使用テキスト		評価方法	
<p>【テキスト】</p> <p>看護系学生のための英語コミュニケーション Speaking of Nursing 南雲堂</p>		<p>1. 筆記試験 2. 課題 3. 出席率 4. 授業参加態度 以上総合評価</p>	

基礎分野			
科目名 英語Ⅱ		必修	担当者 バックレイ・フージャ
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
1年次・後期		30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>医療・看護の現場で英語を使ってコミュニケーションをするための必須表現を学び、患者の症状や病歴を尋ねたり、患者のニーズに対応するロールプレイングを通して、実践的な英語力を育む。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>グローバル化する医療現場における看護師の特殊な英語教育の必要性に応じ、外国人患者への的確な対応など、将来現場で必要な英語力を身につける。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1・2 3～7 8～12 13～14 15	1. 文法 2. 健康に関する日常英語表現 3. 保健医療福祉分野の英語専門用語 4. プレゼンテーション 試験	一斉講義 演習	
使用テキスト		評価方法	
<p>【テキスト】</p> <p>看護系学生のための英語コミュニケーション Speaking of Nursing 南雲堂</p>		<p>1. 筆記試験 2. 課題 3. 出席率 4. 授業参加態度 以上総合評価</p>	

基礎分野			
科目名 比較文化論		必修	担当者 半田 幸子
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
2年次・前期		15時間／1単位／8回	講義
授業の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>地域、国、民族による文化の特徴を知り、国際社会の一員としての自覚を養うとともに健康価値観の差について理解を深める。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>時代、地域、民族、宗教などが、人々の経験とその世界観に影響を及ぼしていることを学び、自分とは異なる世界を生きる他者を理解し、それとともに自分自身を再発見する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1 2・3 4～6 7 8	1. 比較文化論とは 2. 文化の違い 3. 人間文化に存在する差別と偏見 4. 他者を知ること 試験	一斉講義 演習	
使用テキスト		評価方法	
<b>【テキスト】</b> DVD (映画「あん」) (NHK「100分deメディア論」) <b>【参考書】</b> 適宜紹介		1. 筆記試験 2. 課題レポート	

基礎分野			
科目名 地域文化（芸術）		選択	担当者 猪狩 大志
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
2年次・前期		30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習
授業の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>人類の文化的財産としての芸術を通して、人間の表現、審美的感覚に触れ、人間性の涵養をはかる。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>音楽的感性・技能を身に付け、音楽の生み出す曲想やリズムなどの美しさを感じ取りながら、自己表現能力を養う。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1 ～4 5～7 8～13 14 15	1. 人類の歴史と芸術の関わり 2. 文化的生活と芸術の関係 3. 人間の持つさまざまな表現活動 4. 日常生活の中で芸術に親しむ とっておきの音楽祭出演 オリジナル楽曲作曲 5. 芸術と医療の関係 音楽療法について 試験	一斉講義 演習	
使用テキスト		評価方法	
<b>【テキスト】</b> プリント <b>【参考書】</b> 適宜紹介		1. 筆記試験 2. 実技	

基礎分野			
科目名 地域文化（ボランティア）		選択	担当者 海藤 節生
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
2年次・前期		30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>ボランティアという社会活動の歴史と変遷、現状を知り、自らのボランティア活動および保健医療福祉領域におけるボランティア活動についての理解を深める。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>ボランティアの意義を学び、持続的な未来作りのためにボランティア活動（保健医療福祉領域におけるボランティア活動も含む）を通じ複眼的な視野を育む。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1・2 3・4 5～8 9・10 11～14 15	1. ボランティアについて 2. 国連の SDGS（持続可能な開発目標）について 3. 地域社会の課題解決に向けた WS 4. ボランティア活動の実際  試験	一斉講義 演習	
使用テキスト		評価方法	
【テキスト】 プリント 【参考書】		1. 筆記試験	



専門基礎分野			
科目名	必修	担当者	
解剖生理学 I		佐藤 匡 佐藤 あゆみ	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
1年次・前期	60時間／2単位／30回	講義 ・ 演習	
授業の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>人体の構造と機能について学び、専門分野 I ・ II の理解に役立てる能力を養う。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>人体の発生、構成、形態、機能など人間が生きていく仕組みを理解する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1・2 3～9 10～14	1. 人体の構造、細胞、器官、器官系 2. 細胞と組織 3. 消化器系 口腔～胃      小腸～大腸 肝臓・胆嚢・膵臓      消化と吸収	一斉講義 演習	
15	中間試験 解剖見学実習	実習	
16～19	4. 呼吸器系 鼻腔～喉頭      気管～肺 呼吸      酸素解離曲線		
20～22	5. 循環器 全身の動脈・静脈      心臓の構造と機能 心電図		
23～29	6. 血液と体液 造血系とは      赤血球 白血球      血小板      血液型の決定因子 白血球による生態防御      血漿と血清 血液凝固因子      体液の働き・平衡		
30	試験・まとめ		
使用テキスト		評価方法	
<p>【テキスト】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野「解剖生理学」医学書院</p> <p>【参考書】</p> <p>坂井健雄著：ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版</p>		1. 筆記試験	

専門基礎分野			
科目名 解剖生理学Ⅱ	必修	担当者 佐藤 匡 佐藤 あゆみ	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
1年次・後期	60時間／2単位／30回	講義 ・ 演習	
授業の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>人体の構造と機能について学び、専門分野Ⅰ・Ⅱの理解に役立てる能力を養う。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>人体の発生、構成、形態、機能など人間が生きていく仕組みを理解する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1～4	1. 泌尿器系 腎臓の構造と機能 尿管～膀胱 レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系	一斉講義 演習	
5・6	2. 生殖器系 男性生殖器 女性生殖器		
7	3. 成長と老化 成長とは 老化との違い		
8～12	4. 骨格系 骨の成り立ち、成長とリモデリング 骨の名称と働き		
13～17	骨格筋 筋の分類 筋の生理 筋の名称と働き		
18	中間試験・まとめ		
19～22	5. 内分泌系 ホルモンレセプター 副腎ホルモン、膵臓 下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン 性腺ホルモン		
23～27	6. 神経系 神経細胞の構造、神経伝達 活動電位 中枢神経（脳と脊髄） 末梢神経（脳神経、脊髄神経、自律神経） 神経伝達の方向性		
28・29	7. 感覚器系 皮膚 視覚 聴覚 嗅覚		

30	試験・まとめ		
使用テキスト		評価方法	
<p>【テキスト】            系統看護学講座 専門基礎分野「解剖生理学」医学書院</p> <p>【参考書】            坂井健雄著：ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版</p>		1. 筆記試験	

専門基礎分野			
科目名	必修	担当者	
病態生理学		能勢 真人	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
1年次・後期	60時間／2単位／30回	講義 ・ 演習	
授業の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>疾病の成立の回復の促進について学び、専門分野Ⅰ・Ⅱの理解に役立つ能力を養う。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>人間が生きていく仕組みが損なわれた場合にどのような心身の変化が生じるのかを理解する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	疾病総論	一斉講義 演習	
2	1. 疾病概論		
3・4	2. 細胞・組織の障害と修復		
5・6	3. 循環障害		
7・8	4. 炎症と免疫異常		
9・10	5. 感染症		
11	6. 代謝異常		
12	7. 老化と死		
13・14	8. 先天異常と遺伝子異常		
	9. 腫瘍		
15	中間試験・解説		
	疾病各論		
16	10. 循環器系の疾患		
17	11. 血液・造血系の疾患		
18・19	12. 呼吸器系の疾患		
20・21	13. 消化器系の疾患		
22・23	14. 腎・泌尿器系の疾患		
24	15. 生殖器系、乳腺の疾患		
25	16. 内分泌系の疾患		
26	17. 脳神経系の疾患		
27	18. 筋肉系の疾患		
28	19. 骨・関節系の疾患		
29	20. 感覚器系及び皮膚の疾患		

30	試験・解説		
使用テキスト		評価方法	
<b>【テキスト】</b> 系統看護学講座 専門基礎分野 「病理学」医学書院 <b>【参考書】</b> プリント		1. 筆記試験	

専門基礎分野				
科目名 臨床栄養学	必修	担当者 菊地晴久、守屋孝洋、菊地 千明、		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類		
1年次・前期	60時間／2単位／30回	講義 ・ 演習		
授業の概要と達成目標 <概要> 生化学を含め、健康維持と栄養の関係、治療としての栄養について学ぶ。 <達成目標> 人間にとっての栄養の意識を認識し、食事療法の基本を理解する。				
授業回数	授業内容	教授方法	備考	
1	1. ホメオスタシスに関する物質の構造と機能	一斉講義 演習		
2	2. エネルギー代謝			
3	3. 栄養素の種類と特徴			
4～11	4. 栄養素の消化、吸収、代謝 脂質・糖質・核酸・ポルフェリン・タンパク質 ビタミンと補酵素			
12～14	代謝異常			
15	中間試験・まとめ			
16	5. 栄養素の必要量			
17・18	6. 発達段階と栄養 乳児期～成人期 妊娠期・授乳期・更年期・高齢期			
19	7. 栄養アセスメント			
20	8. 病院食と栄養補給方法			
21～28	9. 食事療法、治療食 疾患別食事療法の実際			実習
29	10. 栄養食事指導の実際			
30	試験・まとめ			
使用テキスト				評価方法
<b>【テキスト】</b> 系統看護学講座 専門基礎分野 「生化学」 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 「栄養学」 医学書院 <b>【参考書】</b> 系統看護学講座 別巻「栄養食事療法」 医学書院		1. 筆記試験		

専門基礎分野			
科目名 治療学概論 I	必修	担当者 佐野憲 加藤一郎 吉田秀一 戸巻寛章 吉田秀彦 遠藤千頭 中角尚誉	
年次・開講時期	時間数/単位数/授業回数	授業の種類	
2年次・前期	60時間/2単位/30回	講義 ・ 演習	
授業の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>患者の自覚症状や身体所見と関連した病態生理学的知識に重点を置き、看護師の臨床に活かせる治療学を学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>疾病に対する治療・検査について理解する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1～5	総論 1. 疾病の診断 2. 疾病の治療 1) 内科的治療 2) 外科的治療 3. 死の判定と臓器移植 4. 検体検査・生体検査と検査結果の意味 各論	一斉講義 演習	
6～9	1. 呼吸器機能障害		
10～17	2. 循環器機能障害		
18～23	3. 運動機能障害（骨・関節）		
24～27	4. 栄養摂取、代謝障害（消化器系障害）		
28・29	5. 排泄機能の障害		
30	試験（中間・最終）		
使用テキスト		評価方法	
<b>【テキスト】</b> 系統看護学講座 成人看護学[2]～[15] 医学書院 系統看護学講座 別巻「臨床検査」 医学書院 系統看護学講座 別巻「臨床外科看護総論」 医学書院 新体系看護学全書 別巻「治療法概説」メヂカルフレンド社		1. 筆記試験	

専門基礎分野			
科目名 治療学概論Ⅱ	必修	担当者 石出信正 渡部憲昭 大隅悦子 目黒邦昭 谷田宗男 井樋慶一 福島安義 郷家久道 高橋絵利子 鈴木陽子	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
2年次・前期	30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習	
授業の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>患者の自覚症状や身体所見と関連した病態生理学的知識に重点を置き、看護師の臨床に活かせる治療学を学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>疾病に対する治療・検査について理解する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	1. 運動機能の障害（神経系）	一斉講義 演習	
2	2. 内部環境調節障害（内分泌系障害）		
3・4	3. 栄養摂取、代謝障害（糖代謝障害）		
5	4. 栄養摂取、代謝障害（口腔疾患）		
6	5. 造血機能の障害		
7	6. 免疫機能の障害		
8	7. 皮膚系障害		
9～11	8. 脳神経機能の障害		
12・13	9. 感覚機能の障害（視覚、耳鼻咽喉系）		
14	10. 生殖機能の障害		
15	試験		
使用テキスト		評価方法	
<p>【テキスト】</p> <p>系統看護学講座 成人看護学[2]～[15] 医学書院</p> <p>【参考書】</p>		1. 筆記試験	



専門基礎分野			
科目名 リハビリテーション医学		必修	担当者 谷藤 慶幸 松川 友久 吉田 圭太 安部 成美
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
2年次・後期		30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習
授業の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;          中途障害の原因となる疾患とその回復過程に関する基礎知識および機能回復訓練について学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;          障害および評価法、治療チームアプローチについて学び、リハビリテーションの重要性を学ぶ。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	1. リハビリテーションの概念、定義、歴史	一斉講義	
2	2. リハビリテーションにおける障害のとらえ方		
3	3. リハビリテーションチームにおける専門職の協働・ リハビリテーションに関わる制度		
4	4. リハビリテーション治療学 検査、訓練、治療	実技	
4～13	5. 各種疾患・障害のリハビリテーション ～事例提示～		
14	6. リハビリテーションにおける評価	実技	
15	試験・まとめ		
使用テキスト		評価方法	
<b>【テキスト】</b> 成人看護学 「リハビリテーション看護論」 スーヴェルヒロカワ  <b>【参考書】</b> 講義時、資料配布		1. 筆記試験	

専門基礎分野			
科目名 病気と薬	必修	担当者 尾形 勉 鈴木 敏子 松浦 和範 佐藤 恵理子 鈴木 貴洋 佐古 史 鴨田 祐輔	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
1年次・後期	60時間／2単位／30回	講義 ・ 演習	
授業の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>薬の代謝、体内動態についての基礎知識をもとに、治療薬の分類と特徴を知り、薬の最終提供者として安全な与薬ができる能力を養う。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>薬物の特徴、作用機序、人体への影響および薬物管理について理解するとともに薬物療法を受ける患者の看護を学ぶ上での基礎知識とする。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1～4	<p>&lt;薬理学総論&gt;</p> <p>1. 薬理学概論</p> <p>2. 薬物管理に関する法令</p> <p>3. 薬物と相互作用</p> <p>4. 消毒薬と解毒剤</p>	一斉講義 演習	
5～9	<p>&lt;系統別薬物療法各論&gt;</p> <p>5. 疾病に対する薬物</p> <p>心臓・血管系に作用する薬物</p>		
10～12	末梢での神経活動に作用する薬物		
13～16	中枢神経系に作用する薬物		
17	中間試験・振り返り		
18	消化器系に作用する薬物		
19	呼吸器系に作用する薬物		
20	物質代謝に作用する薬物		
21～29	<p>抗感染症薬 抗がん剤 制吐薬 抗アレルギー薬</p> <p>抗炎症薬</p> <p>6. 診断に用いられる薬物</p>		
30	試験・まとめ		

使用テキスト	評価方法
<p><b>【テキスト】</b>            系統看護学講座 専門基礎分野 「薬理学」 医学書院</p> <p><b>【参考書】</b>            「今日の治療薬 2019」 南江堂</p>	<p>1. 筆記試験</p>

専門基礎分野					
科目名 免疫と病原微生物		必修	担当者 山本 仁		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類		
1年次・後期		30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習		
授業の概要と達成目標 <概要> 人間をとりまく生物学的環境と健康の関係、生物学的環境のコントロール技術としての消毒、滅菌の知識、免疫の仕組みと免疫機能の低下にともなう疾病と看護について学ぶ。 <達成目標> 微生物の特徴と生態に及ぼす影響を理解し、その対応について学ぶ。					
授業回数	授業内容	教授方法	備考		
1	1. 生体防御機構	一斉講義 実験			
2	2. 感染症の歴史と法定伝染病				
3～6	3. 病原微生物の種類と特徴				
7	4. 免疫反応とアレルギー				
8・9	5. 感染のしくみと消毒、滅菌				
10	6. 感染の診断と病態、検査				
11～13	7. 免疫疾患の診断と病態、検査				
14	8. 感染管理 9. 薬剤耐性菌				
15	試験・まとめ				
使用テキスト				評価方法	
【テキスト】 系統看護学講座 専門基礎分野 「微生物学」医学書院  【参考書】				1. 筆記試験	

専門基礎分野					
科目名 関係法規	必修	担当者 塚田 満男			
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類			
2年次・後期	30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習			
授業の概要と達成目標 <概要> 保健医療福祉に関する専門職の身分法、制度について学ぶ。 <達成目標> 看護職の職責を正しく遂行するために必要な制度や関係法律について理解する。					
授業回数	授業内容	教授方法	備考		
1～2	1. 関係法規概論 何故法規を学ぶのか 看護に関係する法律の概要	一斉講義 演習			
3	2. 分野別看護活動と主な関係法規 1) 医療に関する法				
4～5	2) 医療関係者の業務・志位悪に関する法 保健師助産師看護師法など 医師法、薬剤師法など				
6	3) 薬事に関する法				
7	4) 保健衛生に関する法				
8	5) 予防衛生に関する法				
9	6) 学校保健に関する法				
10	7) 労働衛生に関する法				
11	8) 福祉に関する法				
12	9) 社会保険に関する法				
13	10) 環境保全・公害に関する法				
14	11) 環境衛生に関する法)				
15	試験・まとめ				
使用テキスト				評価方法	
【テキスト】 系統看護学講座 専門基礎分野 「看護関係法規」医学書院  【参考書】				1. 筆記試験	

専門基礎分野			
科目名 保健医療福祉行政論 I		必修	担当者 郡山 昌明
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
2年次・後期		15時間／1単位／8回	講義
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>人々の健康を支えている医療と保健・福祉の相互に連携、保健医療福祉行政と社会保障制度の仕組みと役割及び健康をめぐる相互の連携や協働について学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間について理解する。</li> <li>2. 社会保障の理念と基本的な制度の考え方を理解する</li> <li>3. 生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題を理解する。</li> </ol>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	1. ライフサイクルからみた社会保障制度	一斉講義	
2	2. 社会保障制度について		
	1) 社会保障制度と社会福祉		
	2) 現代社会の変化と社会保障の動向		
3・4	3. 社会福祉諸法の理念と施策		
	1) 社会保障制度①：医療保険制度・介護保険制度		
	2) 社会保障制度②：年金保険制度と労働保険制度		
	3) 公的扶助		
5・6	4. 社会福祉の実践		
	1) 社会福祉の分野とサービス		
	2) 社会福祉の歴史と社会福祉実践		
7	5. 社会福祉行政		
8	試験		
使用テキスト		評価方法	
<p>【テキスト】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 「社会保障・社会福祉」 医学書院</p> <p>【参考書】</p>		1. 筆記試験	

専門基礎分野			
科目名 保健医療福祉行政論Ⅱ		必修	担当者 鈴木 寿則
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
3年次・前期		15時間／1単位／8回	講義
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt; 保健・福祉の現状と課題を理解し、集団および個人の抱えている健康生活上の諸問題に対応した社会資源を活用する能力を学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt; 公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方について理解する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	1. 公衆衛生活動の概要 1) 公衆衛生の目的とその方法 2) 健康の概念と主観的健康観 3) 権利とプライマリー・ヘルスケア	一斉講義	
2	2. 現代の保健医療福祉行政の課題		
3～6	3. 疾病の予防と疫学調査 1) 疫学と健康指標 2) 生活環境の保全		
7	4. 西洋および日本における公衆衛生の歴史		
8	試験		
使用テキスト		評価方法	
<p>【テキスト】 系統看護学講座 専門基礎分野 「公衆衛生」 医学書院</p> <p>【参考書】</p>		1. 筆記試験	

専門基礎分野			
科目名 健康管理概論	必修	担当者 桂 晶子	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
1年次・後期	15時間／1単位／8回	講義	
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>健康 21 に基づく健康維持、増進および感染予防に関する法令に関する施策と看護の役割について学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>1. 地域社会における健康増進を支える保健活動を理解する。</p> <p>2. 学校、職場における健康を支える保健活動を理解する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	1. 健康政策と専門職	一斉講義	
2	2. 健康施策の歴史と課題の変化		
3	3. 地域保健と健康づくり		
4	1) 母子保健		
5	2) 成人保健（生活習慣病予防）		
6	3) 高齢者保健		
7	4) 精神保健		
8	5) 歯科保健、難病支援・障害支援		
	6) 感染症対策		
	4. 学校と健康		
	5. 職場と健康		
	試験		
使用テキスト		評価方法	
<p>【テキスト】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 「公衆衛生」 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野 I 「看護学概論」 医学書院</p> <p>【参考書】</p> <p>厚生統計協会：国民の衛生の動向</p>		1. 筆記試験	



専門基礎分野			
科目名 保健統計		必修	担当者 佐々木 裕子
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
1年次・後期		30時間／1単位／15回	講義・演習
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>健康問題の発見・分析・解決に必要な保健統計の概要と重要な指標について理解し説明できる能力を養う。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>1. 保健・健康科学における統計学の全体像を理解する。</p> <p>2. 統計学における基本的なものの考え方を理解する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1～5	1. 国民の健康と保健統計 1) 統計学 2) 健康指標保健統計の実際 3) 傷病分類 4) 官庁統計などの既存資料 5) 生命表・生存分布	一斉講義 演習	
6～8	2. 健康問題の分析方法		
10～12	3. 統計手法とその目的 1) 統計データのまとめ方 2) 確率の意味と正規分布 3) 統計学的検定 4) 回帰と関連		
13～14	4. 自らが関心を寄せるテーマについての情報収集とその分析		
15	試験		
使用テキスト		評価方法	
<p>【テキスト】</p> <p>系統看護学講座 基礎分野 「統計学」 医学書院</p> <p>【参考書】</p>		1. 筆記試験	

専門基礎分野			
科目名 保健医療福祉従事者の役割と倫理		必修	担当者 足沢 美由貴
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
3年次・前期		15時間／1単位／8回	講義
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt; 社会保障制度と生活者の健康について学び、専門分野の理解に役立てる能力を養う。</p> <p>&lt;達成目標&gt; 人々の健康を守るためのサービス提供機関と従事者の役割・機能を理解する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	1. 疾病・健康の価値の変遷や疾病構造の変化	一斉講義      グループ学習	
2	2. 現代医療における看護師の役割		
3	3. 医療供給体制の現状と整備の経過		
4	4. 医療保障の現状と課題		
5	5. 倫理の歴史、現代の倫理、医療倫理、看護倫理		
6	6. 医療における患者の権利		
7	7. 事例から考える倫理の発表		
8	試験		
使用テキスト		評価方法	
<p>【テキスト】</p> <p>新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度① 現代医療論 メヂカルフレンド社</p> <p>【参考書】</p> <p>「看護師の基本的責務」 日本看護協会出版会</p>		<p>1. 出席状況</p> <p>2. 筆記試験(80%)</p> <p>3. グループ学習参加姿勢 (20%)</p>	

専門分野 I			
科目名 看護概論 I	必修	担当者 鈴木 美智子	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
1年次・前期	30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習	
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt; 看護の概念をとらえ、看護の変遷と看護の対象の理解をもとに看護を導き出す方法を学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt; 看護の概念をとらえ、看護の変遷と看護の対象を理解する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1 ～ 5 6 ～ 9 10 11・12 13 14 15	<p>何を学んでいくか 「今あなたが考える看護とは」</p> <p>1. 看護の概念</p> <p>1) 看護の構成要素</p> <p>2) 人間と健康</p> <p>3) 健康と看護</p> <p>4) ライフサイクルと健康・生活</p> <p>2. 看護の提供者と提供の仕組み～看護の変遷から～</p> <p>1) 職業としての看護</p> <p>2) 看護職資格・養成制度とキャリアアップ</p> <p>3) 看護活動の場</p> <p>4) 看護をめぐる制度・法規</p> <p>3. 看護倫理</p> <p>4. 看護理論と看護過程</p> <p>1) 看護理論</p> <p>2) 看護過程</p> <p>5. 保健医療福祉との連帯・継続看護</p> <p>6. 看護について考える 「今あなたが考える看護とは」</p> <p>試験</p>	<p>一斉講義 演習</p> <p>演習 グループ課題・ 発表</p>	
使用テキスト		評価方法	
<p>【テキスト】 系統看護学講座：看護学概論 医学書院</p> <p>【参考書】 「看護覚え書」 現代社 「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会 「看護者の基本的責務」日本看護協会出版会</p>		<p>1. 筆記試験</p> <p>2. レポート</p>	

専門分野 I			
科目名 看護概論Ⅱ	必修	担当者 加藤 雅人	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
3年次・前期	30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習	
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>看護実践力を生涯にわたって発展させていく素地作りとして看護研究の意義，研究のプロセスについて理解し、看護文献の活用能力を身に付ける。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護研究の意義を理解する。</li> <li>2. 研究手法を理解し、自己の疑問解決へと導く研究計画書を作成することができる。</li> <li>3. 文献検索方法を理解し、活用することができる。</li> <li>4. 論文、レポートの書法を理解する。</li> </ol> <p style="text-align: center;">「定められた書式、正しい日本語表記」</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	1. 看護研究とは	一斉講義	
	1) 研究		
	2) リサーチクエスション		
	3) 研究方法		
5	4) 研究計画書		
6・7	2. 文献検索	演習	
8・9	3. 文献検討	演習	
	文献レビューとクリティーク法		
	ディベートオリエンテーション		
10・11	4. ディベート	演習	
12	5. 研究における倫理	一斉講義	
13	6. 研究計画書の作成	演習	
14	7. プレゼンテーション法	一斉講義	
15	試験＋講義		
使用テキスト		評価方法	
<b>【テキスト】</b> 「JJN スペシャル 94 看護研究の進め方・論文の書き方」 医学書院 <b>【参考書】</b>		1. 筆記試験 (60点) 2. ポートフォリオ (40点) 授業課題と研究計画書	

専門分野 I					
科目名 援助関係の成立とコミュニケーション		必修	担当者 齋 二美子		
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類		
1年次・前期		30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習		
授業の概要と達成目標					
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>人間関係を成立・発展させるための技術として、患者－看護師関係とコミュニケーション技術の実践への活用方法を学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>1. 看護における相互作用とコミュニケーションの意義を理解し、効果的なコミュニケーションのための知識、技術、態度を理解する。</p> <p>2. 援助過程において対象者の尊厳と権利を擁護する方法を理解する。</p>					
授業回数	授業内容	教授方法	備考		
1	1. コミュニケーションの基本	一斉講義	小テスト		
2	2. コミュニケーションと人間関係				
3	3. 他者を理解すること・援助すること・援助されること				
4	4. 援助関係に関する看護理論				
5	5. 援助関係構築のためのコミュニケーション				
6・7	6. 効果的なコミュニケーション技法				
8	7. 観察・情報収集・動機づけについてのコミュニケーション				
9	8. 傾聴についてのコミュニケーション				
10	9. チーム医療に取り組む ～アサーティブコミュニケーション～				
11・12	10. 各発達段階にある対象とのコミュニケーション			演習	
13・14	11. 障害を持つ人とのコミュニケーション			演習	小テスト
15	試験＋解説				
使用テキスト				評価方法	
<b>【テキスト】</b> 新体系看護学全書 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 1 メヂカルフレンド社				1. 筆記試験（終講時：70%） 2. 小テスト（20%） 3. 演習（10%）	

専門分野 I			
科目名	必修	担当者 森谷 恭子 加藤 雅人	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
1年次・後期	30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習	
授業の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>観察や計測などさまざまな手法を用いて体表から、身体の状態を推察し、看護活動の必要性、看護活動の効果をアセスメントできる能力を培う。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>1. バイタルサインの観察の目的を理解し、測定技術を習得する。</p> <p>2. 解剖的知識をふまえて、身体診査の手技を習得する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	1. フィジカルアセスメントとは	一斉講義	
2	2. バイタルサインの観察	講義・演習	
～5	体温 脈拍 血圧 呼吸 意識		
6・7	3. バイタルサインの観察の実際	校内実習	
8	4. 系統別フィジカルアセスメント	一斉講義	
～	呼吸器系		
	循環器系・消化器系		
	中枢神経系		
11	感覚器系・運動器系		
12	4. 症状・徴候からのアセスメント		
13	5. フィジカルアセスメントの実際	演習	
14	筆記試験		
15	実技試験		
使用テキスト		評価方法	
<b>【テキスト】</b> 新体系看護学全書専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I メヂカルフレンド社 <b>【参考書】</b> フィジカルアセスメント完全ガイド 第3版 医学書院		1. 筆記試験 2. 実技試験 3. 課題レポート	

専門分野 I			
科目名 基礎看護方法 I	必修	担当者 森谷 恭子	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
1 年次・前期	30 時間／ 1 単位／15 回	講義 ・ 演習	
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・療養環境を整える意義を理解し、その方法を学ぶ。</li> <li>・感染のメカニズムおよび感染予防の意義と目的を理解し、感染予防の技術を習得する。</li> <li>・医療を安全に提供するために必要な安全管理の知識を理解する。</li> <li>・対象の苦痛の緩和と安楽を確保の意義とその目的を理解し、その方法を学ぶ。</li> <li>・ボディメカニクスについてその基本原理を理解し、援助過程において、対象者と看護者双方が、安楽かつ安全な体位で、効果的・効率的にケアを実践する基本的方法を学ぶ。</li> </ul> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 療養環境を整えることの意義・目的・方法を理解する。</li> <li>2. 感染予防の意義・目的・方法を理解する。</li> <li>3. 医療事故の定義と要因，対策について理解する。</li> <li>4. ボディメカニクスの原理を理解し、対象者と看護者双方が、効果的・効率的にケアを実践する方法を理解する。</li> </ol>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1 ～ 5 6～9 10 11・12 13.5 0.5 15	<p>1. 環境を整える技術</p> <p>1) 療養環境：リネン交換</p> <p>2) 臥床患者のシーツ交換</p> <p>2. 感染予防の技術</p> <p>1) 感染予防：衛生的手洗い</p> <p>2) 感染予防：スタンダードプリコーション</p> <p>3) 感染予防：滅菌手袋の装着・ガウンテクニック</p> <p>3. 安全確保の技術</p> <p>1) ヒューマンエラーについて</p> <p>4. ボディメカニクス</p> <p>5. 苦痛の緩和・安楽確保の技術</p> <p>1) 罨法</p> <p>筆記試験</p> <p>実技試験</p>	<p>一斉講義・演習 校内実習</p> <p>一斉講義 演習</p> <p>一斉講義</p> <p>一斉講義・演習</p> <p>一斉講義・演習</p>	

使用テキスト	評価方法
<p><b>【テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新体系看護学全書専門分野Ⅰ基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社</li> <li>・新体系看護学全書専門分野Ⅰ基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社</li> </ul> <p><b>【参考書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術」 メヂカルフレンド社</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筆記試験</li> <li>2. 技術試験</li> </ol>



専門分野 I			
科目名	基礎看護方法Ⅱ	必修	担当者 須田 幸子
年次・開講時期	1年次・前期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類
		60 時間／2 単位／30 回	講義 ・ 演習
授業の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>看護の対象の基本的ニーズを満たす生活行動援助の方法（食生活、排泄、活動、休息、清潔、衣生活）を学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>日常生活行動への援助技術の意義・目的・方法を理解する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1・2	1. 活動・休息の援助技術	一斉講義	
3～6	1) 活動・休息のアセスメント		
	2) 活動の援助の実際	演習	
	車椅子移乗・移送 など	校内実習	
7・8	2. 食事・栄養の援助技術	一斉講義	
	1) 食事・栄養のアセスメント		
	2) 非経口栄養法	演習	
9～11	3) 食事摂取への援助	校内実習	
	食事介助・口腔ケア		
12・13	3. 清潔・衣生活の援助技術	一斉講義	
14	1) 清潔のアセスメント		
	2) 清潔・衣生活の援助の実際	演習	
～22	整容・手浴・足浴・洗髪・清拭・寝衣交換	校内実習	
23・24	4. 排泄の援助技術	一斉講義	
	1) 排泄のアセスメント		
25～28	2) 排泄の援助の実際	演習	
	自然排泄のための方法・用具	校内実習	
	浣腸・導尿・オムツ交換		
	一時的導尿法		
29	筆記試験（2回：中間・最終）		
30	実技試験		

使用テキスト	評価方法
<p><b>【テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新体系看護学全書専門分野Ⅰ基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社</li> </ul> <p><b>【参考書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術」 メヂカルフレンド社</li> </ul>	<p>1. 筆記試験</p> <p>2. 実技試験</p> <p>* (筆記試験 1回目 60点+2回目 60点) ×0.5 +実技試験 40点=100点</p> <p>*評価には授業態度・レポート提出状況を加味する場合もある</p>

専門分野 I			
科目名 基礎看護方法Ⅲ	必修	担当者 須田 幸子 加藤 雅人	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
1年次・後期	30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習	
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>看護を科学的に展開するための思考過程を学び、看護過程の展開方法を習得する。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程の意義・必要性について理解する。</li> <li>2. 看護過程におけるクリティカルシンキングとは何かを理解する。</li> <li>3. 看護過程の構成要素について理解し、看護過程を展開することができる。</li> <li>4. 看護における記録及び報告について理解できる。</li> <li>5. 看護における教育・指導技術の基本について理解できる。</li> </ol>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	1. 看護過程	一斉講義	
2	1) 看護過程の意義・必要性		
3~12	2) 思考過程 (クリティカルシンキング)		
	3) 看護過程とは		
	4) 看護過程の展開		
	(1) アセスメント	グループ学習	
	(2) 看護問題の明確化		
	(3) 計画		
	(4) 実施 (記録・報告含む)		
	(5) 評価		
13	2. 看護記録	一斉講義	
14	3. 教育・指導技術		
15	試験+講義		

使用テキスト	評価方法
<p><b>【テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 ヌーヴェルヒロカワ</li> <li>・ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題 リスト ヌーヴェルヒロカワ</li> <li>・新体系看護学全書専門分野Ⅰ基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 筆記試験 (70 点)</li> <li>3. グループ学習 (30 点)</li> </ul>

専門分野 I			
科目名	基礎看護方法Ⅳ	必修	担当者 森谷 恭子
年次・開講時期	2年次・前期	時間数／単位数／授業回数	30時間／1単位／15回
		授業の種類	講義 ・ 演習
授業の概要と達成目標 <概要> 看護の対象が安全、安楽に診療を受けられるための看護の実践方法を学ぶ。 <達成目標> 1. 診察における看護師の役割と患者への援助方法を理解する。 2. 薬物療法の意義・目的および看護師の役割を理解し、薬物療法を受ける患者に必要な援助の方法を習得する。 3. 検査・処置時の看護師の役割を理解し、介助方法および検体の採取方法を習得する。			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	1. 診察の援助 1) 診療とは 2) 診療における看護師の役割 3) 診察の援助の実際	一斉講義	
2	2. 与薬の技術 1) 薬物療法の意義	一斉授業	
～	2) 薬物療法の基礎的知識		
4	3) 薬物療法における看護師の役割		
5～7	4) 注射法の種類と実施時の留意点	講義・演習	
8～10	5) 筋肉内注射・皮下注射・・・・・・・・①	校内実習①・②	
11	6) 点滴静脈内注射・・・・・・・・②		
12	7) 直腸内与薬・・・・・・・・③	一斉授業	
13・14	3. 検査に伴う技術 1) 検査の意義と看護師の役割 2) 検査の種類と実施時の留意点 3) 検査実施時の介助方法、検体の採取方法	講義・演習	
15	4) 静脈血採決の方法・・・・・・・・④ 試験	校内実習③・④	

使用テキスト	評価方法
<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新体系看護学全書専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社</li> </ul> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術」 メヂカルフレンド社</li> </ul>	<p>1. 筆記試験</p>

専門分野 I			
科目名 基礎看護方法V	必修	担当者 加藤 雅人 五十嵐 春香 細川 勝彦	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
2年次・前期	30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習	
授業の概要と達成目標 <概要> 健康障害をもつ対象の状態に応じた看護の役割とその方法を学ぶ。 <達成目標> 1. 健康状態の経過に基づく看護を理解する。 2. 主要な症状を示す対象者への看護を理解する。 3. 対象者の生命の安全を確保するために、一次救命処置に関する知識と技術を理解する。 4. 医療用機器の原理と取り扱い上の注意点を理解する。			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1・2	1. 健康状態の経過に基づく看護 1) 急性期 2) 慢性期 3) リハビリテーション期 4) 終末期 5) 死亡時のケア、グリーフケア	一斉講義  演習	
3～7	2. 主要症状に関する看護 1) 体温・呼吸・循環を整える看護 2) 酸素吸入、吸引 3) 創傷・疼痛に対する看護	一斉講義  校内実習	
8～10	3. 治療処置時の看護 1) 治療・処置を受ける患者の看護 2) 包帯法	一斉講義  演習	
11・12	4. 救急救命処置技術 1) 救急蘇生法とは 2) 一次救命処置（BLS実技） 3) 止血法	一斉講義 演習	
13～14	5. 医療用機器の原理と実際 輸液ポンプ・シリンジポンプ・除細動器 モニター・人口呼吸器など	一斉講義 演習	
15	試験		
使用テキスト		評価方法	

<p><b>【テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新体系看護学全書専門分野Ⅰ基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社</li> <li>・新体系看護学全書専門分野Ⅰ基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社</li> </ul> <p><b>【参考書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術」 メヂカルフレンド社</li> </ul>	<p>1. 筆記試験</p>
--	----------------



専門分野Ⅱ			
科目名	必修	担当者	
成人看護概論		福原 史津 須田 幸子 足沢 美由貴	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
1年次・後期	60時間／2単位／30回	講義 ・ 演習	
授業の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>成人期にある対象の健康に焦点をあて、身体的・心理的・社会的特徴を理解し、起こりやすい健康問題の予防と健康の保持・増進を支援する看護について学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>1. 成人期の特徴を身体面・精神面・社会面から理解し、その時期に対する看護活動の概要について理解する。</p> <p>2. 一人の成人の身体機能の変調をとらえるには、加齢による影響、疾患・外傷による影響、生活習慣・生活行動による影響という3つの視点が必要になることを理解する。</p> <p>3. 一人ひとりの成人にとって、「身体」や「身体機能」の見方は必ずしも看護職と一致しないことを踏まえた上で、看護を提供する目的をもって、その個人の身体機能をアセスメントする方法を理解する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1～5	1. 成人の特徴 1) 成人の理解 2) 各発達段階の特徴 3) 成人としての生活	一斉講義 演習	
6～17	2. 生活と健康 1) 大人の生活状況の特徴 国民経済の現状 日常生活の状況 2) 大人の健康の状況 生と死の動向 受療状況 自殺 心の病 健康リスク 生活習慣病 3) 生活ストレスに関連する健康障害		
18～19	3. 保健・医療・福祉システムの概要・連携 4. 健康をおびやかす要因と看護 5. 成人の特性や能力に応じたアプローチの基本 1) 成人におけるヘルスアセスメント、看護過程の展開 3) 家庭・職場で責任ある役割を担う人への援助	一斉授業 演習	

20～21	6. 健康保持増進、疾患の予防に向けたアプローチ 1) 生活習慣病の予防 2) 職業性疾患の予防	一斉授業 演習	
22～29	7. 成人期にある人への看護援助		
30	試験（2回：中間・最終）		
使用テキスト		評価方法	
<b>【テキスト】</b> 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「成人看護学総論」 医学書院 配布資料 <b>【参考書】</b> 国民衛生の動向		1. 筆記試験 2. 記録提出物	

専門分野Ⅱ			
科目名 成人看護方法Ⅰ	必修	担当者 福原 史津 足沢 美由貴 鈴木 雅司 佐藤 大介 今井 明子	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
2年次・前期	60時間／2単位／30回	講義 ・ 演習	
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt; 健康レベル（各経過）における対象の健康問題を理解し、問題解決のための看護について学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt; 各経過における対象の健康問題を理解し、看護の要点を理解する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1～4	1. 急性期にある患者の看護 1) 急性期における身体的反応・心理的反応	一斉講義 演習	
5～7	2) 急性期の看護活動 2) 周手術期の看護		
8～10	2. 回復期にある患者の看護 1) 回復期の支援の特徴		
11～17	2) 回復期に必要な概念 3) 回復期の看護活動		
18～22	3. 慢性期にある患者の看護 1) 慢性期看護の考え方 2) 慢性期にある人の特徴と理解 3) 慢性期の看護活動 4) 化学療法を受ける患者の看護		
23～29	4. 終末期にある患者の看護 1) 終末期の支援の特徴 2) 死をめぐる倫理的問題 3) 終末期にある人の家族の特徴と理解 4) Total Pain について 5) 臨死期の看護	一斉講義 演習	
30	5. 成人期にある人の看護過程 試験（2回：中間・最終；各45分）		

使用テキスト	評価方法
<p>【テキスト】</p> <p>成人看護学「急性期看護論」</p> <p>「周手術期看護論」</p> <p>「慢性期看護論」</p> <p>「緩和・ターミナルケア看護論」</p> <p>「ヘンダーソン看護論実践」</p> <p>以上 ノーベルヒロカワ</p>	<p>1. 筆記試験</p> <p>2. 記録提出物</p>

専門分野Ⅱ			
科目名 成人看護方法Ⅱ	必修	担当者 小西 和枝 山口 咲子 氏家 寿代 加藤 由樹 金子 真也 安部 美紀 奥山 梨絵 北山 巧 江口 かつら 菅原 奈津子	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
2年次・後期	60時間／2単位／30回	講義 ・ 演習	
授業の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>機能障害によっておこる日常生活への影響を把握しその看護について学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>機能障害によっておこる日常生活への影響を把握し、必要な看護を理解する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1～3	1. 呼吸機能障害のある患者の看護	一斉講義 演習	
4～6	2. 循環機能障害のある患者の看護		
7～11	3. 栄養摂取、代謝障害のある患者の看護		
12～14	4. 内部環境調整障害のある患者の看護		
15～16	5. 生態防衛機能障害のある患者の看護		
17～18	6. 感覚機能障害のある患者の看護		
19～21	7. 運動機能障害のある患者の看護		
22～25	8. 脳・神経機能障害のある患者の看護		
26～27	9. 排泄機能障害のある患者の看護		
28～29	10. 生殖機能障害のある患者の看護		
30	1) 男性の生殖既往障害時の看護 2) 女性の生殖機能障害時の看護 試験（2回：中間・最終；各45分）		
使用テキスト		評価方法	
<b>【テキスト】</b> 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1]～[15]		1. 筆記試験 2. 記録提出物	

専門分野Ⅱ			
科目名 老年看護概論	必修	担当者 櫻井 美和	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
1年次・後期	15時間／1単位／8回	講義 演習	
授業の概要と達成目標 <概要> 高齢者の特徴を知り、QOLを高める看護の役割を理解する。 <達成目標> 1. 高齢者の特徴とその生活を理解する。 2. 老年看護の基本的な考え方を理解する。			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	1. 老年期の理解 1) おいのイメージと自己の描く老年 2) 時代背景	一斉講義	
2・3	2. 老年期を生きる人々の特徴 1) ライフサイクルからの老年期 2) 老年期の発達と成熟（発達課題） 3) 高齢者の多様性	演習 一斉授業	
4・5 6・7	4) 模擬体験 3. 高齢者を取り巻く社会 1) 高齢社会の統計的輪郭 ・わが国の高齢化 ・高齢者のいる世帯（構成） ・高齢者の健康状態（平均寿命・健康寿命） ・高齢者の暮らし（構造・家族・習慣・環境・就労・収入など）		
8	試験		
使用テキスト		評価方法	
<b>【テキスト】</b> 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「老年看護学」 医学書院 <b>【参考書】</b> 国民衛生の動向		1. 筆記試験	

専門分野Ⅱ			
科目名 老年の健康と看護	必修	担当者 櫻井 美和	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
1年次・後期	15時間／1単位／8回	講義	
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt; 地域で生き生き生活できることを支援する看護及び社会システムについて学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者におこりやすい健康問題の予防と健康の保持増進のための看護を理解する。</li> <li>2. 保健医療福祉制度の変革が老年看護に与える影響を理解する。</li> <li>3. 老年看護における看護師の果たす役割を理解する。</li> </ol>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	1. 高齢社会における保健医療福祉の動向 1) ソーシャルサポート 2) 保健医療福祉システムの構築	一斉講義	
2～3	2. 介護保険制度 1) 制度発足の背景 理念の理解 2) 介護保険のしくみと流れ 3) 介護保険サービスの種別		
4	3. 高齢者医療のしくみ 1) 後期高齢者医療制度 2) 高齢者を支える職種と活動の多様化		
5	4. 高齢社会における権利擁護 1) 高齢者に対するスティグマと差別 2) 虐待の種類と現状・サポートシステム 3) 身体拘束廃止に向けた取り組み		
6	5 成年後見制度と日常生活支援事業		
7	6. 老年看護の基本的な考え 1) ICF モデル 2) 高齢者のための国連原則		
8	試験		

使用テキスト	評価方法
<p>【テキスト】            系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「老年看護学」 医学書院</p>	<p>1. 筆記試験</p>



専門分野Ⅱ			
科目名 老年看護方法Ⅰ		必修	担当者 櫻井 美和 石出 信正
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
2年次・後期		30時間／1単位／15回	講義・演習
授業の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt; 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護について学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt; 加齢現象や高齢者特有の症候・疾患によっておこる機能障害の特徴を学び、求められる基本的な看護を理解する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1～3	1. 加齢変化 1) 加齢や予備力・適応力低下 2) 機能変化とアセスメント	一斉講義	
4～6	2. 主要症状の理解 1) 身体症状のアセスメント 発熱・掻痒・脱水・嘔吐・浮腫・倦怠感	一斉授業 演習	
7～9	3. 高齢者看護アセスメント 1) 基本動作と環境 2) 転倒・廃用症候群 3) 食生活・排泄 4) 清潔・衣生活 5) 生活リズム（活動・休息） 6) コミュニケーション	一斉授業	
10～12	4. QOLから捉える最新の高齢者医療 1) 認知症を中心とした疾患 2) 精神神経疾患（脳血管疾患・パーキンソン他） 3) 呼吸器疾患（高齢者肺炎）		
13・14	5. 老年疾患の特徴 廃用症候群 ロコモティブシンドローム せん妄		
15	試験 6. 老年看護に求められる看護技術（口腔ケア）	一斉講義	

使用テキスト	評価方法
<p>【テキスト】＜例＞            系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「老年看護 病態・疾患論」            医学書院</p> <p>【参考書】            「老年看護技術」 医学書院</p>	<p>1. 筆記試験</p>

専門分野Ⅱ			
科目名 老年看護方法Ⅱ	必修	担当者 櫻井 美和 黒須 明美 内海 史子	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
2年次・後期	30時間／1単位／15回	講義・演習	
授業の概要と達成目標			
<概要> 健康障害を持つ高齢者とその家族に対する看護について学ぶ。 <達成目標> 健康障害を持つ高齢者とその家族に対する看護の実践について理解する。			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1・2	1. 代表的な疾患と看護 認知症・うつ病・せん妄・パーキンソン病 インフルエンザ・肺炎・褥瘡	一斉講義	
3～5	2. 治療をうける高齢者への看護		
6・7	3. 終末期にある高齢者への看護		
8～10	4. 地域資源を活用した看護 1) 在宅での療養生活に向けた支援制度 2) 高齢者のリスクマネジメント		
11	5. 老年看護技術 経管栄養・口腔ケア・義歯の取り扱い	一斉講義 演習	
12～14	6. 老年期にある人の看護過程展開 事例	一斉講義 演習	
15	試験・まとめ		
使用テキスト		評価方法	
<b>【テキスト】</b> 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 「老年看護学」「老年看護 病態・疾患論」 医学書院  <b>【参考書】</b> 「老年看護技術」 医学書院		1. 筆記試験 (80%) 2. 課題レポート (20%)	

専門分野Ⅱ			
科目名 小児看護概論		必修	担当者 佐藤 恵
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
1年次・後期		15時間／1単位／8回	講義
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>新生児期から思春期までの各発達段階における身体・心理・社会的特徴を理解し、健康な発育と療育を促進する看護について学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護の特徴を理解する。</li> <li>2. 子どもの人権と看護を理解する。</li> <li>3. 子どもの健康と保健医療福祉システムを理解する</li> </ol>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	1. 子どもと家族の看護の概念 1) 小児看護の対象 2) 子どもと家族と社会 3) 小児看護の役割	一斉講義	
2	2. 小児看護の変遷		
3	3. 子どもの人権と看護 1) 子どもの権利 2) 子どもと家族の看護を行なう看護師の倫理的役割		
4	4. 子どもと家族の諸統計		
5	5. 母子保健施策の動向		
6	6. 子どもと家族を取り巻く社会の変化 1) 社会環境の変化と子どもと家族への影響 2) 子どもを取り巻く様々な問題		
7	7. 小児看護の課題		
8	試験		

使用テキスト	評価方法
<p><b>【テキスト】</b>            系統看護学講座 小児看護学[1]            「小児看護学概論」「小児臨床看護総論」 医学書院</p> <p><b>【参考書】</b>            「小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア」            日総研</p> <p>「国民衛生の動向」</p>	<p>1. 出席状況            2. 筆記試験</p>

専門分野Ⅱ			
科目名 小児の健康と看護		必修	担当者 岩崎 美子
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
2年次・前期		15時間／1単位／8回	講義
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>成長発達に応じた小児と家族への健康問題の予防と健康の保持・増進のための看護を学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>1. 子どもの発達段階に応じたアセスメントを理解する。</p> <p>2. 小児各期の日常生活と援助の方法を理解する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1 2～6 7 8	<p>1. 子どもの成長と発達</p> <p>2. 発達段階に応じた子どもと家族の理解</p> <p>1) 小児各期の日常生活と援助</p> <p>          新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期</p> <p>          (1) 形態的な成長</p> <p>          (2) 機能的発達</p> <p>          (3) 身体機能</p> <p>          (4) 心理・社会的機能</p> <p>          (5) 二日常生活</p> <p>3. 小児各期に起こりやすい問題・事故</p> <p>試験</p>	一斉講義	
使用テキスト		評価方法	
<p>【テキスト】</p> <p>系統看護学講座 小児看護学[1]</p> <p>「小児看護学概論」「小児臨床看護総論」 医学書院</p> <p>【参考書】</p> <p>「小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア」</p> <p>日総研</p>		<p>1. 出席状況</p> <p>2. 筆記試験</p>	

専門分野Ⅱ			
科目名 小児看護方法Ⅰ		必修	担当者 岩崎 美子 仁尾 栄子
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
2年次・後期		30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>病気や入院が小児と家族へ与える影響とその看護について学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの病気の理解について発達的特徴と関連させて理解する。</li> <li>2. 病気や入院が子どもに与える影響、家族への影響について理解する。</li> <li>3. 小児期における主な疾患と治療を理解する。</li> <li>4. 小児看護に必要な基本的看護技術を習得する。</li> </ol>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1～7 8 9 10・11 12・13 14 15	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児期における主な疾患と治療</li> <li>2. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもの病気と入院する子どもの特徴</li> <li>2) 子どもの入院と医療の現場</li> <li>3) 入院病棟の環境</li> <li>4) 病院の規則</li> <li>5) 病気や入院が子どもに与える影響</li> </ol> </li> <li>3. ストレスを緩和する看護</li> <li>4. 小児外来における看護</li> <li>5. 検査・処置を受ける子どもと家族の看護</li> <li>6. 小児看護技術</li> <li>7. 小児看護におけるプレパレーション</li> </ol> <p>試験</p>	<p>一斉講義</p> <p>演習</p>	

使用テキスト	評価方法
<p><b>【テキスト】</b></p> <p>系統看護学講座 小児看護学[1]  「小児看護学概論」「小児臨床看護総論」 医学書院</p> <p>系統看護学講座 小児看護学[2]  「小児臨床看護各論」 医学書院</p> <p><b>【参考書】</b></p> <p>「小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア」 日総研  「写真でわかる小児看護技術」 インターメディカ</p>	<p>1. 出席状況</p> <p>2. 筆記試験</p>



専門分野Ⅱ			
科目名	必修	担当者	
小児看護方法Ⅱ		岩崎 美子 佐藤 恵	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
2年次・後期	30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習	
授業の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>様々な状況にある小児と家族への看護について学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>1. 健康障害をもつ子どもと家族の看護を理解する。</p> <p>2. 健康障害をもつ子どもの事例展開ができる。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1～3	1. 健康段階に応じた看護 1) 慢性期 2) 急性期 3) 周手術期	一斉講義	
4・5	2. 活動制限・隔離・痛みのある子どもと家族の看護		
6・7	3. ハイリスク新生児・先天的な問題を持つ子どもと家族の看護		
8	4. 在宅における子どもと家族の看護		
	5. 障害のある子どもと家族の看護		
9	6. 救急救命処置が必要な子どもと家族の看護		
10	7. 子どもの虐待と看護		
11	8. 災害時の子どもと家族の看護		
12	9. 終末期の子どもと家族の看護		
13・14	10. 小児の看護過程展開 事例		
15	試験・看護過程の展開		
使用テキスト		評価方法	
<p>【テキスト】</p> <p>系統看護学講座 小児看護学[1] 「小児看護学概論」「小児臨床看護総論」 医学書院</p> <p>系統看護学講座 小児看護学[2] 「小児臨床看護各論」 医学書院</p> <p>【参考書】</p> <p>「小児看護学 子どもと家族の示す行動への判断とケア」日総研 「写真でわかる小児看護技術」 インターメディカ</p>		<p>1. 出席状況</p> <p>2. 筆記試験</p>	

専門分野Ⅱ			
科目名 母性看護概論	必修	担当者 足沢 美由貴	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
1年次・後期	15時間／1単位／8回	講義	
授業の概要と達成目標 <概要> 母性とは、母性看護の対象、関連する保健医療の仕組み、倫理問題、人間の性と生殖について理解し、女性の健康保持増進を支援する看護の概要を学ぶ。 <達成目標> 女性のライフサイクルと女性を取り巻く環境を学び、女性への支援を理解する。			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	1. 母性看護学の概要 1) 母性看護学とは 2) 母性看護の現状と課題 3) 母性看護の理念 4) 母性、父性、親性、母親役割、父親役割 5) 母子相互作用・愛着形成 6) 家族の発達・機能	一斉講義	
2	2. 女性中心の看護 1) 女性を中心としたケア、家族を中心としたケア 2) ウエルネス      3) エンパワメント 4) セルフケア		
3	3. リプロダクティブヘルス/ライツとセクシャリティ		
4	4. 母子保健統計		
5	5. 母子保健に関する施策		
6	6. 生殖に関する生理		
7	7. 母性看護における倫理		
8	試験		
使用テキスト		評価方法	
【テキスト】 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院		1. 筆記試験	

専門分野Ⅱ			
科目名	必修	担当者	
母性の健康と看護		荒生 有花	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
2年次・前期	15時間／1単位／8回	講義	
授業の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>女性のライフサイクルの特徴と対象の健康問題の予防と健康の保持・増進するための看護について学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>女性のライフサイクルにおける身体的、心理的、社会的特性とその援助を理解する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	1. 女性のライフサイクル各期のリプロダクティブヘルスの課題と看護の概要	一斉講義	
	1) 思春期・成熟期・更年期・老年期のライフサイクルの特徴		
	2) 第二性徴—身体的発育の特徴、初潮		
2・3	2. 思春期女性のリプロダクティブヘルスの課題と看護		
	1) 無月経、貧血、月経困難症、月経前症候群 摂食障害		
	2) 人工妊娠中絶 性感染症 低用量ピル・緊急避妊 性教育		
4～6	3. 成熟女性のリプロダクティブヘルスの課題と看護		
	1) やせ妊娠 女性の喫煙・飲酒 産科救急システム 現代の子産み子育て、親支援 家族計画		
	2) 健康問題 がん検診と予防ワクチン 不妊		
	3) ドメスティクバイオレンス		
7	4. 更年期女性のリプロダクティブヘルスの課題と看護		
8	筆記試験		
使用テキスト		評価方法	
<p>【テキスト】</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ</p> <p>母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院</p> <p>母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院</p>		1. 筆記試験	

専門分野Ⅱ			
科目名	必修	担当者	
母性看護方法Ⅰ		荒生 有花	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
2年次・後期	30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習	
授業の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>正常な妊娠、分娩、産褥、新生児の特徴と対象の健康を保持増進するための看護について学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>1. マタニティサイクルにおける妊娠期の時期的な特徴を理解する。</p> <p>2. 妊娠中に起こりやすい不快症状の発症機序を理解し、看護ケアのポイントを理解する。</p> <p>3. 新生児の生活全般にわたるケアを理解する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1～3	1. 妊娠期における看護 1) 妊娠の経過 2) 妊婦と胎児のアセスメント 3) 胎児心拍陣痛図 4) 保健指導	一斉講義 技術演習	
4・5	2. 分娩期における看護 1) 分娩経過 2) 産婦のアセスメントと看護 3) 分娩の進行に合わせた看護		
6～8	3. 産褥期における看護 1) 産褥期の経過 2) 日常生活とセルフケア 3) 親役割への支援		
9	4. 新生児期における看護 1) 新生児の生理と機能 2) 新生児の評価 3) 出生直後の新生児の看護		
10～13	5. 母性看護技術 新生児の観察・沐浴	演習 校内実習	
14	6. 周産期における安全 7. 母性における災害看護		
15	試験		

使用テキスト	評価方法
<p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・系統看護学講座 専門分野Ⅱ <ul style="list-style-type: none"> <li>母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院</li> <li>母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院</li> </ul> </li> <li>・看護実践のための根拠がわかる母性看護技術 メヂカルフレンド社</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筆記試験</li> <li>2. 課題</li> </ol>

専門分野Ⅱ				
科目名	必修	担当者		
母性看護方法Ⅱ		荒生 有花 福島 安義		
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類		
2年次・後期	30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習		
<b>授業の概要と達成目標</b> <概要> ・妊娠、分娩、産褥、新生児の異常とその看護について学ぶ。 ・周産期における看護過程の展開を学ぶ <達成目標> 1. 妊娠中に起こりやすい正常からの逸脱（異常）や、そのリスクについて理解する。 2. それぞれの異常について、その予防、異常が起こった場合の看護を理解する。 3. 母性看護の看護過程の特殊性を理解し、看護として解決すべき問題や現象として表現できる。				
授業回数	授業内容	教授方法	備考	
1・2	1. 妊娠期の異常	一斉講義		
3・4	2. 分娩期の異常			
5	3. 産褥期の異常			
6	4. 新生児の異常			
7	5. 妊娠期の異常の看護			
8	6. 分娩期の異常の看護			
9	7. 産褥期の異常の看護			
10	8. 新生児の異常の看護			
11～14	9. 看護過程の展開			演習
15	試験			
使用テキスト		評価方法		
<b>【テキスト】</b> 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論 医学書院 母性看護学[2] 母性看護学各論 医学書院		1. 筆記試験(80%) 2. 提出物(20%)		

専門分野Ⅱ			
科目名 精神看護概論		必修	担当者 鈴木 美智子
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
2年次・前期		15時間／1単位／8回	講義
授業の概要と達成目標 <概要> 精神看護の基本概念や変遷を理解し、精神看護の役割等を学ぶ。 <達成目標> 1. 精神看護の基本概念を理解する。 2. 精神保健医療福祉の歴史と法制度を理解する。			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1～3	1. 精神看護の基本概念 1) 精神医療・看護を取り巻く社会状況の変化 2) 精神看護とは 3) ケア的前提・ケアの原則 4) 自己を知ること	一斉講義  演習	
4	2. 精神保健医療福祉の歴史と看護	一斉講義	
5～6	3. 精神看護における看護理論		
7	4. 精神保健福祉活動の法制度		
8	試験		
使用テキスト		評価方法	
<b>【テキスト】</b> 系統看護学講座 精神看護学① 精神看護の基本」 医学書院 系統看護学講座 精神看護学② 「精神看護の展開」 医学書院		1. 筆記試験	

専門分野Ⅱ			
科目名 精神の健康と看護	必修	担当者 島谷 由美子	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
2年次・前期	15時間／1単位／8回	講義	
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>精神の健康概念と様々な発達段階にある対象の精神の健康、起こりやすい健康問題を理解し、その予防と健康が保持・増進できるための看護について学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>1. 精神の健康概念とその保持増進のための看護を理解する。</p> <p>2. 発達段階と精神の健康について理解する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	1. 精神の健康	一斉講義      演習	
2	2. こころの理解と医療の枠組みの中での実践		
3	3. ライフサイクルから見た精神の健康と危機と看護		
4	1) 乳幼児期		
5	2) 学童期・青年期		
6	3) 成人期		
7	4) 老年期		
8	4. 精神保健を守るための諸法律  試験		
使用テキスト		評価方法	
<p>【テキスト】</p> <p>系統看護学講座 精神看護学① 精神看護の基本」 医学書院</p> <p>系統看護学講座 精神看護学② 「精神看護の展開」 医学書院</p>		1. 筆記試験	



専門分野Ⅱ			
科目名 精神看護方法Ⅰ	必修	担当者 上野 聖平 熊谷 愛子	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
2年次・前期	30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習	
授業の概要と達成目標 <概要> 患者の人権と安全を守り、診断と治療を理解しその看護について学ぶ。 <達成目標> 1. 精神科治療と看護を理解する。 2. 安全な治療環境の提供と人権擁護を理解する。			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1 2・3 4 ～9 10 11・12	1. 精神科疾患の治療 1) 精神障害の理解 2) 精神症状の理解 3) 外因性・内因性・心因性精神障害 4) てんかん・発達障害・パーソナリティ障害 5) 精神科での治療	一斉講義 演習	
13 14	2. 治療別看護 1) 主な検査に伴う看護 2) 薬物療法時の看護 3) 電気けいれん療法時の看護 4) 精神療法時の看護	一斉講義	
15	3. 患者家族の理解とその反応 4 患者の安全と保護（治療環境と人権擁護） 1) 行動制限と看護 2) 精神科におけるリスクマネジメント 試験＋まとめ		
使用テキスト		評価方法	
<b>【テキスト】</b> 系統看護学講座 精神看護学① 精神看護の基本 医学書院 系統看護学講座 精神看護学②「精神看護の展開」 医学書院		1. 筆記試験	

専門分野Ⅱ			
科目名 精神看護方法Ⅱ	必修	担当者 熊谷 小百合	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
2年次・後期	30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習	
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;            症状・経過に応じた看護について学ぶとともに、精神障害者の地域生活を支える援助について理解する。</p> <p>&lt;達成目標&gt;            1. 精神障害を持つ人の看護について理解する。            2. 精神障害を持つ人の地域生活を支えていくための援助について理解する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	1. 症状別看護 1) 意識の障害	一斉講義	
2	2) 知覚・思考・記憶の障害		
3	3) 感情・意欲の障害		
4	4) 人格障害・アルコール依存・その他の障害		
5	5) 睡眠障害・摂食障害・強迫障害		
6	2. 精神看護におけるチーム医療		
7	3. 精神障害者のリハビリテーション・精神保健福祉サービスの実際	演習	
8	4. 経過別看護 1) 急性期・回復期・慢性期における看護(身体ケア)		
9	2) 急性期・回復期・慢性期における看護(行動制限)		
10～12	5. 関連する技法 1) プロセスレコード 2) リエゾン看護、生活技能訓練(SST)	演習	
13・14	6. 看護過程の展開	演習	
15	試験+まとめ		
使用テキスト		評価方法	
【テキスト】		1. 筆記試験	
系統看護学講座	精神看護学① 精神看護の基本	医学書院	2.
系統看護学講座	精神看護学②「精神看護の展開」	医学書院	

統合分野			
科目名 在宅看護概論		必修	担当者 近藤 幸枝
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
1年次・後期		15時間／1単位／8回	講義
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>在宅看護の特徴と在宅療養者及び家族について学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の目的・特徴を理解する。</li> <li>2. 在宅看護の対象者（療養者とその家族）を理解する。</li> <li>3. 在宅看護に関わる制度を理解する。</li> <li>4. 在宅看護の役割と機能を理解する。</li> </ol>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	1. 在宅看護の目的・特徴	一斉講義	
2	1) 在宅看護の特性		
3	2) 在宅看護の変遷と現状		
4	2. 在宅看護の対象者		
5	1) 在宅看護の対象者の特徴		
6	2) 家族		
7	3. 在宅療養者の支援		
8	1) 在宅看護の提供方法		
	2) 療養の場の移行		
	4. 在宅看護の制度		
	1) 訪問看護制度		
	2) 介護保険制度		
	5. 在宅看護の役割		
	1) 療養上のリスクマネジメント		
	2) 在宅看護における権利保障		
	試験		
使用テキスト		評価方法	
<b>【テキスト】</b> 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 <b>【参考書】</b> 国民衛生の動向		1. 筆記試験	

統合分野			
科目名 在宅看護方法 I		必修	担当者 近藤 幸枝
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
2年次・前期		30 時間／ 1 単位／ 15 回	講義 ・ 演習
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt; 在宅看護活動の概要を理解し、在宅における看護について学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問看護ステーションの概要及び活動を理解する。</li> <li>2. 在宅療養生活を支える看護技術を習得する。</li> <li>3. 在宅療養生活者の健康障害について理解する。</li> </ol>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1～2	1. 訪問看護ステーションの概要及び活動 1) 訪問看護制度の創設と発展経緯 2) 在宅看護に関わる法令・制度 3) 訪問看護とは 4) 訪問看護の制度 5) 訪問看護サービスの提供 6) ケアマネジメントと社会資源の活用 7) 地域における多職種連携 8) 療養上のリスクマネジメント	一斉講義	
3～13	2. 生活支援方法と技術 1) 在宅看護を支えるコミュニケーション 2) 在宅看護を展開するうえで検討すべきポイント 3) 呼吸に関する在宅看護技術 4) 排泄に関する在宅看護技術 5) 食生活・嚥下に関する在宅看護技術 6) 清潔に関する在宅看護技術 7) 移動・移乗に関する在宅看護技術 8) 認知機能のアセスメント法と援助技術 9) コミュニケーション支援 10) 在宅におけるエンドオブライフケア	一斉講義 演習 校内実習	
14	3. 在宅療養者に多い疾患(健康障害) 1) ALS	一斉授業	

15	2) 脳血管障害 3) がん  試験+まとめ		
使用テキスト		評価方法	
<b>【テキスト】</b> 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院  <b>【参考書】</b> 写真でわかる 訪問看護 インターメディカ出版		1. 筆記試験	

統合分野			
科目名 在宅看護方法Ⅱ	必修	担当者 近藤 幸枝 樋渡 恵久子 寺島 千絵	
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類	
2年次・後期	60時間／2単位／30回	講義 ・ 演習	
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt; 在宅における医療管理を必要とする人や在宅療養者の状態に合わせた看護について学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅療養者の状態・状況に応じた看護を理解する。</li> <li>2. 在宅における医療管理を必要とする人の看護を理解する。</li> <li>3. 在宅での看護過程の展開を理解する。</li> </ol>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1～6	1. 在宅療養者の状態・状況に合わせた看護 1) 脳血管疾患 2) 難病 3) 認知症 4) 精神障害 5) 終末期	一斉講義	
7～20	2. 医療管理を必要とする人の看護 1) 人工呼吸療法 2) 酸素療法 3) 胃ろう・経管栄養法 4) 中心静脈栄養法 5) 人工肛門 6) 膀胱留置カテーテル法 7) 褥瘡管理	一斉講義	
21～29	3. 在宅での看護過程展開 1) 看護過程の構成要素 2) 事例を通じての具体的な在宅看護の展開	一斉講義 演習	
30	試験（2回：中間・最終）		

使用テキスト	評価方法
<p><b>【テキスト】</b>            系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院</p> <p><b>【参考書】</b>            写真でわかる 訪問看護 インターメディカ出版</p>	<p>1. 筆記試験            2. 課題レポート</p>

統合分野			
科目名	医療安全	必修	担当者 千葉 恵美 加藤 由樹
年次・開講時期	3年次・前期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類
		30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>人は間違いをおこす存在であり、さまざまな事例とその原因分析について学び、医療事故を起こさない個人及び団体のあり方を考察し、自らの行動を省みて修正することができる能力を身につける。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>1. ヒューマンエラーは人間の特性と環境が関係していることを、人間の基本特性とエラーを誘発しやすい環境との関係が理解する。</p> <p>2. エラーが起りにくいしくみを作るには具体的に何をすべきかを理解する。</p> <p>3. 専門職として、医療事故にどのように向き合っていくべきかを考え、ディスカッションすることができる。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1	1. 医療安全を学ぶ必要性	一斉講義	
2～5	2. 診療補助の事故防止 1) 注射業務 2) 輸液業務 3) 内服与薬業務 4) 経管栄養業務 5) チューブ管理		
6・7	3. 療養上の世話の事故防止 1) 転倒転落 2) 食事時の窒息・誤嚥 3) 異食 4) 入浴中の事故	一斉講義	
8	4. 危機予知訓練	演習	
9	5. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因 主な発生要因と防止 ～患者間違い～		
10	6. 医療安全とコミュニケーション チーム医療における患者情報の共有～	一斉講義	
11	7. 問題解決方法 ヒューマンエラー・分析方法	演習	



12	8. 看護師の労働安全衛生上の事故防止	演習 一斉講義	
13	9. 組織的な安全管理体制への取り組み		
14	10. 医療安全体制の国内外の潮流		
15	筆記試験・まとめ		
使用テキスト		評価方法	
<b>【テキスト】</b> 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[2] 「医療安全」 医学書院		1. 筆記試験	

統合分野			
科目名 災害看護		必修	担当者 佐藤 薫子
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
3年次・後期		30時間／1単位／15回	講義 ・ 演習
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>災害看護の定義と役割を学び、災害直後から支援できる看護の基礎的知識を習得する。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>1. 災害サイクルに沿った看護活動を理解する。</p> <p>2. 災害時の制度と支援システムをふまえ、災害時の看護技術を理解する。</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1～3	1. 災害看護の定義と役割 1) 災害医療の基礎知識 2) 災害看護の歴史 3) 災害看護の基礎知識	一斉講義	
4	2. 災害サイクルに沿った看護活動	一斉講義	
5・6	1) トリアージ演習 2) 応急処置・包帯法演習	演習	
7・8	3. 被災者特性に応じた災害看護の展開	一斉講義	
9・10	4. 災害と心のケア	演習	
	5. 地震災害看護の展開	演習	
11	1) 急性期		
12	2) 亜急性期		
13	3) 慢性期		
14	4) 復興期		
15	試験・まとめ		
使用テキスト		評価方法	
<p>【テキスト】</p> <p>系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3] 「災害看護学・国際看護学」 医学書院</p>		1. 筆記試験	

統合分野			
科目名 国際看護		必修	担当者 宮本 祐子
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
3年次・前期		15時間／1単位／8回	講義
授業の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>諸外国の患者・住民の社会経済状況や宗教・文化をふまえ、その集団がもつ独自の健康観や健康行動があることを理解するとともに、看護の活動領域として国際看護の実際を学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際看護学のこれまでの流れを把握し、国際的にどのような健康問題が課題になっているのかを理解する。</li> <li>2. 看護の国際協力にはどのような組織・しくみが関わっているのかを理解する。</li> <li>3. 国際看護の基本理念を理解し、その方法を考察する。</li> </ol>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1・2	1. 国際看護の概念 1) 国際看護とは 2) 国際看護師協会の看護綱領 3) 国際看護を取り巻く理念や戦略	一斉講義 演習	
3・4	2. 世界の健康問題 1) 健康に関する指標 2) 貧困と健康 3) 性差と健康	一斉講義	
5・6	3. 国際看護の実際 1) 国際協力 2) 諸外国での看護制度 3) 海外での国際看護 4) 国内での国際看護	一斉講義 演習	
7	4. 国際看護活動に必要な能力	一斉講義・演習	
8	試験		
使用テキスト		評価方法	
<p>【テキスト】</p> <p>新体系看護学全書 看護の統合と実践3 国際看護学 メヂカルフレンド社</p>		1. 筆記試験	

統合分野					
科目名	必修	担当者			
看護管理		佐藤 裕恵 村上 由佳			
年次・開講時期	時間数／単位数／授業回数	授業の種類			
3年次・前期	15時間／1単位／8回	講義			
授業の概要と達成目標					
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>いつでも、どこでも、だれでもが最良な医療・看護を受けられるために看護師に期待される役割と組織の一員として目的達成に向けた協働のありかたについて学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護のマネジメントとは何かを理解する。</li> <li>2. 組織における協働とリーダーシップ・メンバーシップについて理解する。</li> <li>3. チーム医療の中での看護の役割を理解する。</li> </ol>					
授業回数	授業内容	教授方法	備考		
1	5. 看護管理過程 1) 組織とマネジメント 2) 看護管理 3) 看護師の仕事とその管理	一斉講義			
2・3	6. 看護の質保証と看護管理 1) 看護サービスの組織化 2) ケアの変革 3) 患者の権利擁護と看護倫理 4) 安全管理体制				
4・5	7. 看護管理のスキル 1) 人間関係を構築する技術 2) 組織の効率性を高める技術				
6	8. 看護と経営 1) 組織における協働と連携 2) 経営とは				
7	5. チーム医療における看護師の役割				
8	筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
【テキスト】 ナースィンググラフィカ看護の統合と実践① 「看護管理」 メディカ出版				1. 筆記試験	

統合分野			
科目名 看護技術ゼミナール		必修	担当者 専任教員全員
年次・開講時期		時間数／単位数／授業回数	授業の種類
3年次・後期		30時間／1単位／15回	講義・演習
<p>授業の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt; 既習の知識・技術を統合し、対象に合わせて実践できる能力を確認し、看護実践能力向上の上での課題を明確化する。</p> <p>&lt;達成目標&gt; 1. より臨地実践に近い状況での看護が実践できる。 ～当校の『看護師教育の技術項目と卒業時の到達度』を達成とする～</p>			
授業回数	授業内容	教授方法	備考
1～12	<p>1. より良い看護実践</p> <p>1) 「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」を元に、講義、演習、実習で体験した看護方法（技術）から課題を見出す</p> <p>2 課題解決に向け話し合い、より良い看護技術の検討をする</p> <p>2. 臨床でおこっている状況を設定し、複雑な治療を受ける事例に必要な看護を見出し、模擬的に実践する</p>	<p>演習</p> <p>演習</p>	
13～15	筆記試験＋実技試験		
使用テキスト		評価方法	
<p>【テキスト】 各看護学で使用するテキスト</p> <p>【参考書】 各看護学で使用する参考書</p>		<p>1. 参加姿勢（25%）</p> <p>2. 筆記試験（25%）</p> <p>3. 技術試験（50%）</p>	

基礎看護学：臨地実習			
科目名	必修	担当者	
基礎看護学実習 I		専任教員	実習指導教員
年次・開講時期	時間数／単位数	授業の種類	
1年次・前期	45時間／1単位	臨地実習	
<p>臨地実習の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>入院患者の療養生活を支える各部門の職種とその役割を知ると同時に、入院による生活の変化やそれに伴う対象者の基本的欲求の充足状況や患者の気持ちを知る。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康障害のある対象の、療養の場としての病院について理解する。</li> <li>2. コミュニケーションを通し、対象者の生活や気持ちを知る。</li> <li>3. 看護チームの活動の実際を知る。</li> </ol>			
授業回数	実習内容	教授方法	備考
2日間	実習目標 1 1) 病院の組織・構造・機能 2) 病院における保健医療福祉チームを構成する職種とその役割 3) 病棟の療養環境	オリエンテーション 臨地実習	
4日間	実習目標 2 1) ヘンダーソンの基本的欲求 14 項目に基づいて情報収集 2) 対象の療養生活の様子・気持ち 3) 受け持ち患者の訴えや話を十分に聞く 4) 対象との積極的な関わり 実習目標 3 1) 看護チームの活動・役割の実際		
使用テキスト		評価方法	
詳細は「臨地実習要項」参照		1. 実習評価表に基づき実施	

基礎看護学：臨地実習			
科目名	必修	担当者	
基礎看護学実習 II		専任教員	実習指導教員
年次・開講時期		時間数／単位数	授業の種類
1年次・後期		45時間／1単位	臨地実習
<p>臨地実習の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>患者の基本的欲求が充足されるよう、患者の状態にあわせて生活行動の援助技術を中心に援助を実施する。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>1. 入院生活を送っている受け持ち患者に対し、共通基本技術や日常生活行動への援助技術を活用して基本的欲求の充足に努める。</p> <p>2. 患者・家族、及び看護チームメンバーとの関係が、良好に維持・発展できるように努める。</p>			
授業回数	実習内容	教授方法	備考
6日間	<p>実習目標 1</p> <p>1) 患者の情報収集</p> <p>2) 情報を分析し、必要な援助を判断</p> <p>3) 援助方法を具体的に表現</p> <p>4) 安全・安楽な技術を患者の条件に合わせて実施</p> <p>5) 行った援助の評価</p> <p>実習目標 2</p> <p>1) 患者・家族と良好な人間関係成立のための努力</p> <p>2) 看護チームメンバーの一員としての役割を果たすための努力</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>臨地実習</p>	
使用テキスト		評価方法	
詳細は「臨地実習要項」参照		1. 実習評価表に基づき実施	

基礎看護学：臨地実習			
科目名	必修	担当者	
基礎看護学実習 III		専任教員	実習指導教員
年次・開講時期		時間数／単位数	授業の種類
2年次・前期		45時間／1単位	臨地実習
<p>臨地実習の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>患者の基本的欲求が充足されるように、患者の状態にあわせて生活行動の援助技術・診療に伴う援助技術の援助を実施する。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 入院生活を送っている受け持ち患者に対し、基礎看護学で学んだ援助技術を活用して、基本的欲求の充足に努める。</li> <li>2. 診療場面における看護の役割について知識・理解を深める。</li> <li>3. 患者・家族・看護チームメンバーとの関係が、良好に維持・発展できるように努める。</li> </ol>			
授業回数	実習内容	教授方法	備考
6日間	<p>実習目標 1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者の情報収集</li> <li>2) 情報を分析し、必要な援助を判断</li> <li>3) 援助方法を具体的に表現</li> <li>4) 安全・安楽な技術を患者の条件に合わせて実施</li> <li>5) 行った援助の評価</li> </ol> <p>実習目標 2</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 診療における看護師の役割</li> </ol> <p>実習目標 3</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者・家族と良好な人間関係成立のための努力</li> <li>2) 看護チームメンバーの一員としての役割を果たすための努力</li> </ol>	<p>オリエンテーション</p> <p>臨地実習</p>	
使用テキスト		評価方法	
詳細は「臨地実習要項」参照		1. 実習評価表に基づき実施	



成人看護学：臨地実習			
科目名	必修	担当者	
成人看護学実習 I		専任教員	実習指導教員
年次・開講時期		時間数／単位数	授業の種類
2年次・後期		90時間／2単位	臨地実習
臨地実習の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>手術療法を受ける患者を受け持ち、急性期～回復期にある成人の看護を学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 急性期・回復期にある対象の身体的、精神的、社会的側面を成人期の特徴から総合的に理解する</li> <li>2. 急性期にある対象に対して、術後合併症の予防に努め、回復促進のための看護を計画し実践・評価する</li> <li>3. 回復期にある対象が、自立した生活が営めるように看護を計画し実践・評価する</li> <li>4. 急性期・回復期にある対象とその家族に応じた看護技術を実践する</li> <li>5. 対象、家族及び保健医療福祉チームとよりよい人間関係の成立に努める</li> <li>6. 保健医療福祉チームの一員としての役割と責任を自覚し行動する</li> <li>7. 急性期・回復期看護について理解を深める</li> </ol>			
授業回数	実習内容	教授方法	備考
3週間	<p>実習目標 1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象の特徴</li> <li>2) 対象の基本的欲求の充足状況</li> <li>3) 治療計画（方針・内容）</li> <li>4) 対象の障害・入院が社会的役割への影響</li> <li>5) 対象の全体像</li> </ol> <p>実習目標 2・3・4</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護問題抽出</li> <li>2) 期待される結果（目標）の設定</li> <li>3) 具体的・個別性のある具体策を立案</li> <li>4) 看護計画に基づいた実施</li> <li>5) 急性期・回復期における回復促進のための援助の実施</li> <li>6) 対象の苦痛緩和のための援助の実施</li> <li>7) 対象の日常生活動作の自立に向けての援助の実施</li> <li>8) 実施した援助を評価</li> <li>9) 評価に基づいて看護計画を修正・変更</li> <li>10) 対象の状況（家族構成・理解度・病態など）に応</li> </ol>	<p>オリエンテーション</p> <p>臨地実習</p>	

	<p>じた指導の計画</p> <p>実習目標 5</p> <p>1)対象（家族）に常に向き合おうとする姿勢</p> <p>2)病棟スタッフや多職種、学生間で積極的なコミュニケーションと協調しようとする努力</p> <p>実習目標 6</p> <p>1)対象に関する情報や実践した結果の報告</p> <p>2)時間・約束を守り、責任をもって自分の役割をやり遂げる</p> <p>実習目標 7</p> <p>1)急性期・回復期の看護</p>		
使用テキスト		評価方法	
詳細は「臨地実習要項」参照		1. 実習評価表に基づき実施	

成人看護学：臨地実習			
科目名	必修	担当者	
成人看護学実習 II		専任教員	実習指導教員
年次・開講時期		時間数／単位数	授業の種類
3年次・前期・後期		90時間／2単位	臨地実習
<p>臨地実習の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>長期間にわたり医療が必要であり、治癒することが困難な慢性期にある成人の看護を学ぶ</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性期にある対象の身体的、精神的、社会的側面を成人期の特徴から総合的に理解する</li> <li>2. 慢性期にある対象及び家族に対し、セルフケアができるよう看護を計画し実践・評価する</li> <li>3. 慢性期にある対象とその家族に応じた看護技術を実践する</li> <li>4. 対象、家族及び保健医療福祉チームとよりよい人間関係の成立に努める</li> <li>5. 保健医療福祉チームの一員としての役割と責任を自覚し行動する</li> <li>6. 慢性期看護について理解を深める</li> </ol>			
授業回数	実習内容	教授方法	備考
3週間	<p>実習目標 1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象の特徴</li> <li>2) 対象の基本的欲求の充足状況</li> <li>3) 治療計画（方針・内容）</li> <li>4) 対象の障害・入院が社会的役割への影響</li> <li>5) 対象の全体像</li> </ol> <p>実習目標 2・3</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護問題抽出</li> <li>2) 期待される結果（目標）の設定</li> <li>3) 具体的・個別性のある具体策を立案</li> <li>4) 看護計画に基づいた実施</li> <li>5) 自己効力を高めるための援助の実施</li> <li>6) 二次障害を予防するための援助の実施</li> <li>7) 対象・家族への生活指導の計画</li> <li>8) 実施した援助を評価</li> <li>9) 評価に基づいて看護計画を修正・変更</li> <li>10) 社会資源の活用</li> </ol> <p>実習目標 4</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象（家族）に常に向き合おうとする姿勢</li> </ol>	<p>オリエンテーション</p> <p>臨地実習</p>	

	<p>2)病棟スタッフや多職種、学生間で積極的なコミュニケーションと協調しようとする努力</p> <p>実習目標 5</p> <p>1)対象に関する情報や実践した結果の報告</p> <p>2)時間・約束を守り、責任をもって自分の役割をやり遂げる</p> <p>実習目標 6</p> <p>1)慢性期の看護</p>		
使用テキスト		評価方法	
詳細は「臨地実習要項」参照		1. 実習評価表に基づき実施	

成人看護学：臨地実習			
科目名	必修	担当者	
成人看護学実習 III		専任教員	実習指導教員
年次・開講時期		時間数／単位数	授業の種類
3年次・後期		90時間／2単位	臨地実習
臨地実習の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>あらゆる治療をしても治癒が困難で死が避けられない終末期にある成人の看護を学ぶ</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終末期にある対象の身体的、精神的、社会的側面を成人期の特徴から総合的に理解する</li> <li>2. 終末期にある対象とその家族に対し、苦痛の緩和につとめ、その人らしい生活が送れるよう看護を計画し実践・評価する</li> <li>3. 終末期にある対象とその家族に応じた看護技術を実践する</li> <li>4. 対象、家族及び保健医療福祉チームとよりよい人間関係の成立に努める</li> <li>5. 保健医療福祉チームの一員としての役割と責任を自覚し行動する</li> <li>6. 終末期看護について理解を深める</li> </ol>			
授業回数	実習内容	教授方法	備考
3週間	<p>実習目標 1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象の特徴</li> <li>2) 対象の基本的欲求の充足状況</li> <li>3) 治療計画（方針・内容）</li> <li>4) 対象の障害・入院が社会的役割への影響</li> <li>5) 対象の全体像</li> </ol> <p>実習目標 2・3</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護問題抽出</li> <li>2) 期待される結果（目標）の設定</li> <li>3) 具体的・個別性のある具体策を立案</li> <li>4) 看護計画に基づいた実施</li> <li>5) 対象の生活習慣を尊重した援助の実施</li> <li>6) 対象の苦痛の緩和のための援助の実施</li> <li>7) 実施した援助を評価</li> <li>8) 評価に基づいて看護計画を修正・変更</li> <li>9) 対象と家族(大切な人)と一緒にいられる配慮</li> <li>10) 対象の状況（家族構成・理解度・病態など）に応じた指導の計画</li> </ol> <p>実習目標 4</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象（家族）に常に向き合おうとする姿勢</li> </ol>	<p>オリエンテーション</p> <p>臨地実習</p>	

	<p>2)病棟スタッフや多職種、学生間で積極的なコミュニケーションと協調しようとする努力</p> <p>実習目標 5</p> <p>1)対象に関する情報や実践した結果の報告</p> <p>2)時間・約束を守り、責任をもって自分の役割をやり遂げる</p> <p>実習目標 6</p> <p>1)終末期の看護</p>		
使用テキスト		評価方法	
詳細は「臨地実習要項」参照		1. 実習評価表に基づき実施	

老年看護学：臨地実習			
科目名	必修	担当者	
老年看護学実習 I		専任教員	実習指導教員
年次・開講時期		時間数／単位数	授業の種類
2年次・後期		90時間／2単位	臨地実習
<p>臨地実習の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>地域で生活する高齢者を理解し、QOLを高めるための支援やサービスの在り方、健康を支える老年看護について学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期の課題や特性を踏まえ、生活者としての対象を理解する。</li> <li>2. 生活機能の視点で必要な援助を考え実践できる。</li> <li>3. 生活の質の向上を目指す援助を企画し実践できる。</li> <li>4. 施設における看護職の役割と他職種との連携について理解する。</li> <li>5. チームの一員としての自覚と責任を持ち、主体的に学ぶことができる。</li> </ol>			
授業回数	実習内容	教授方法	備考
3週間	<p>実習目標 1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 老化現象</li> <li>2) 発達課題</li> <li>3) 生活歴・家族背景</li> <li>4) 健康障害の経過と生活の変化</li> <li>5) 対象者と家族双方の思いや役割</li> </ol> <p>実習目標 2</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日常生活についての情報収集、分析</li> <li>2) 必要な援助を抽出</li> <li>3) 認知状態や障害に応じたコミュニケーション</li> <li>4) 残存機能を活かした日常生活援助の実践</li> <li>5) 実践した援助の評価</li> </ol> <p>実習目標 3</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 援助の目的を考えた実践</li> <li>2) 障害や残存機能を考慮したアクティビティ立案</li> <li>3) 安全な環境を整えた実践</li> <li>4) 実践した企画の評価</li> <li>5) 通所リハビリテーションの役割と機能</li> </ol> <p>実習目標 4</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象を支援する他職種の役割</li> </ol>	<p>オリエンテーション</p> <p>臨地実習</p> <p>(介護老人保健施設 通所リハビリテーション 等)</p>	

	<p>2)施設における看護職の役割</p> <p>実習目標 5</p> <p>1)対象を尊重した言葉遣い・態度。</p> <p>2)時間・約束を守り、責任をもった行動</p> <p>3)高齢者理解を深めた倫理観・老年観</p>		
使用テキスト		評価方法	
詳細は「臨地実習要項」参照		1. 実習評価表に基づき実施	



老年看護学：臨地実習			
科目名	必修	担当者	
老年看護学実習 II		専任教員	実習指導教員
年次・開講時期		時間数／単位数	授業の種類
3年次・前期・後期		90時間／2単位	臨地実習
臨地実習の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>健康障害がある老年期の人の看護を学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年期にある対象を総合的に理解する。</li> <li>2. 疾病、或いは健康障害により生活機能が低下した対象の残存機能を把握し、それを最大限活用出来るような看護を計画し、実践、評価する。</li> <li>3. 老年期にある対象の生活信条、信念、価値観を尊重した行動がとれる。</li> <li>4. 主体的に学習し、チームの一員として責任ある行動がとれる。</li> </ol>			
授業回数	実習内容	教授方法	備考
3週間	<p>実習目標 1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 身体的、心理的、社会的、日常生活面</li> <li>2) 生活史や生活習慣、生理的機能低下</li> <li>3) 生活機能の視点での情報収集</li> <li>4) 老化に疾病が伴った症状、経過</li> </ol> <p>実習目標 2</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 長年の生活背景と生活習慣と健康問題</li> <li>2) 看護問題抽出</li> <li>3) 優先順位の設定</li> <li>4) 期待される結果（目標）の設定</li> <li>5) 具体的・個別性のある具体策の立案</li> <li>6) 早期離床を促す援助</li> <li>7) 残存機能を活かした日常生活援助の実施</li> <li>8) 合併症・二次障害を防止する援助の実施</li> <li>9) 他職種の役割と連携と社会資源の活用</li> <li>10) 生活史や生きがいを活かした援助</li> <li>11) 評価に基づいた看護計画の修正・変更</li> </ol> <p>実習目標 3</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象（家族）と向き合おうとする姿勢</li> <li>2) 対象の生活のペースを守る努力</li> </ol> <p>実習目標 4</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 老年看護</li> </ol>	<p>オリエンテーション</p> <p>臨地実習（病院）</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>2) 主体的に学習</li> <li>3) 責任をもった行動</li> </ul>		
使用テキスト		評価方法	
詳細は「臨地実習要項」参照		1. 実習評価表に基づき実施	

小児看護学：臨地実習			
科目名	必修	担当者	
小児看護学実習		専任教員	実習指導教員
年次・開講時期		時間数／単位数	授業の種類
3年次・前期・後期		90時間／2単位	臨地実習
<p>臨地実習の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>小児病棟・外来実習：健康障害が子どもと家族に及ぼす影響と看護を学ぶ</p> <p>保育所実習：健康な乳幼児の成長と発達を学ぶ</p> <p>障害児施設実習：障害のある子どもの成長と発達について学ぶ</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>小児病棟・外来実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児期にある対象の特徴が理解できる。</li> <li>2. 対象の成長発達と健康状態に応じた看護を実践できる。</li> <li>3. 対象およびその家族（特に保護者）とのよりよい人間関係の成立に努めることができる。</li> <li>4. 小児科外来の特徴と役割が理解できる。</li> <li>5. 保健医療チームの一員として役割と責任を自覚し行動できる。</li> <li>6. 小児看護について考察ができる。</li> </ol> <p>保育所実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康な乳幼児の成長発達における個別性が理解できる。</li> <li>2. 乳幼児の日常生活の援助を理解できる。</li> <li>3. 乳幼児の成長発達における環境の影響を学ぶことができる</li> </ol> <p>障害児施設実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害のある子どもの生活を知ることができる。</li> <li>2. 障害のある子どもを取り巻く他職種との連携を理解することができる</li> </ol>			
授業回数	実習内容	教授方法	備考
2週間	<p>&lt;小児病棟・外来実習&gt;</p> <p>実習目標 1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 成長発達段階の特徴と発達課題に比較した状況</li> <li>2) 健康障害、健康段階</li> <li>3) 基本的欲求の充足状況</li> <li>4) 対象の全体像</li> </ol> <p>実習目標 2</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護問題抽出</li> <li>2) 優先順位を考慮した看護計画立案</li> <li>3) 発達段階・健康状態に合わせた援助</li> <li>4) 実施した援助の評価</li> </ol>	<p>オリエンテーション</p> <p>臨地実習</p> <p>(病院)</p>	

	<p>5) 安全の配慮 6) 家族への援助の必要性</p> <p>実習目標 3</p> <p>1) 発達段階に合わせたコミュニケーション 2) 積極的な傾聴 3) 人権を尊重した言葉遣い・態度</p> <p>実習目標 4</p> <p>1) 小児科外来の看護の役割. 2) 対象の受診行動とその経過、背景 3) 外来を受診する対象に配慮した行動</p> <p>実習目標 5</p> <p>1) 看護チームの一員として報告・連絡・相談 2) 主体的に学習する態度 3) 時間・約束を守り責任を持った行動</p> <p>実習目標 6</p> <p>1) 健康障害が患児に及ぼす影響</p>		
4 日間	<p>&lt;保育所実習&gt;</p> <p>実習目標 1</p> <p>1)各発達段階の特徴</p> <p>実習目標 2</p> <p>1)基本的生活習慣を獲得するために必要なしつけ 2)乳幼児の成長発達にとっての遊び 3)乳幼児との望ましい関わり方</p> <p>実習目標 3</p> <p>1)保育所での集団生活や家庭環境が乳幼児の成長発達に及ぼしている影響 2)乳幼児の安全な環境</p>	(保育所)	
1 日間	<p>&lt;障害児施設実習&gt;</p> <p>実習目標 1</p> <p>1) 障害の子どもの成長発達への影響 2) 障害のある子どもの療育</p> <p>実習目標 2</p> <p>1) 障害のある子どもに関わる専門職の役割 2) 障害のある子どもを取り巻く社会資源</p>	(障害児施設)	

使用テキスト	評価方法
詳細は「臨地実習要項」参照	1. 実習評価表に基づき実施

母性看護学：臨地実習			
科目名 母性看護学実習	必修	担当者 専任教員 実習指導教員	
年次・開講時期	時間数／単位数	授業の種類	
3年次・前期・後期	90時間／2単位	臨地実習	
<p>臨地実習の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護を学ぶ</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊婦の身体や心理・社会的特性を理解し、対象の状態に応じた看護を理解する。</li> <li>2. 産婦の身体や心理・社会的特性を理解し、対象の状態に応じた看護を理解する。</li> <li>3. 産褥期における母子の看護過程を展開する。</li> <li>4. 産褥期における母子への必要な基礎的看護技術を習得する。</li> <li>5. 地域における母子保健活動の実際について理解する。</li> <li>6. 母性に関連した社会資源について理解を深める。</li> <li>7. 自己の母性意識あるいは父性意識を深め、母性看護の意義について理解を深める。</li> <li>8. 主体的に学習し、看護の責任と役割を果たす。</li> </ol>			
授業回数	実習内容	教授方法	備考
3週間	<p>実習目標 1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)妊婦の身体や心理・社会的特性</li> <li>2 正常経過か否か分析・判断</li> <li>3)保健指導の実際</li> </ol> <p>実習目標 2</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)産婦の身体や心理・社会的特性</li> <li>2)産婦の看護</li> </ol> <p>実習目標 3</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)母子の身体や心理・社会的特性</li> <li>2)正常経過か否かの分析・判断</li> <li>3)母子の看護計画の立案</li> <li>4)実践した援助の評価</li> </ol> <p>実習目標 4</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)褥婦が正常経過をたどる支援</li> <li>2)母親役割習得のための支援</li> <li>3)新生児の順調な発育に向けての支援</li> <li>4)新生児の援助の実施</li> </ol>	<p>オリエンテーション</p> <p>臨地実習</p> <p>(病院)</p>	

	<p>実習目標 5</p> <p>1) 助産所の母子保健活動</p> <p>実習目標 6</p> <p>1) 母性に関連した社会資源</p> <p>実習目標 7</p> <p>1) 周産期における健康教育の意義、方法</p> <p>2) 自己の母性意識あるいは父性意識の考察</p> <p>3) 母性看護の意義</p> <p>実習目標 8</p> <p>1) 期限内の記録提出</p> <p>2) 積極性</p> <p>3) 対象の尊重</p> <p>4) プライバシーへの配慮</p> <p>5) 安全な実施</p>	(助産所) 1 日	
使用テキスト		評価方法	
詳細は「臨地実習要項」参照		1. 実習評価表に基づき実施	

精神看護学：臨地実習			
科目名 精神看護学実習	必修	担当者 専任教員 実習指導教員	
年次・開講時期	時間数／単位数	授業の種類	
3年次・前期・後期	90時間／2単位	臨地実習	
<p>臨地実習の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>医療機関での実習：精神障害をもつ人の看護とコミュニケーション技術を学ぶ</p> <p>社会復帰施設での実習：通所者（メンバー）とのかかわりを通して、社会復帰施設の意義と看護を学ぶ</p> <p>社会復帰施設見学実習：施設の概要・活動の実際・スタッフ（職員）の役割を学ぶ</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <p>医療機関での実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害をもつ人を総合的に理解する。</li> <li>2. 精神障害をもつ人の日常生活の自立のための看護を実践する。</li> <li>3. 精神障害をもつ人とのコミュニケーションについて理解を深め、自己洞察できる態度を養う。</li> <li>4. 精神障害をもつ人の安全を守るための援助を理解する</li> </ol> <p>社会復帰施設での実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会復帰施設の活動内容を知り、その意義について理解を深める。</li> <li>2. 通所者が精神障害をもちながら生活している状況を知る。</li> <li>3. スタッフの通所者へのかかわり方について理解を深める</li> </ol> <p>社会復帰施設見学実習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害を持つ人の社会復帰施設の理解を深め、スタッフ（職員）の役割を知る</li> </ol>			
授業回数	実習内容	教授方法	備考
半日 2週間	<p>&lt;医療機関での実習&gt;</p> <p>実習目標 1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象の生活歴・家族背景</li> <li>2) 発症から現在に至るまでの経過</li> <li>3) 治療方針</li> <li>4) 家族のかかわり</li> <li>5) 基本的欲求の状態</li> <li>6) 基本的欲求の充足状況</li> </ol> <p>実習目標 2</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 症状の日常生活への影響</li> <li>2) 看護問題抽出</li> <li>3) 行動を引き起こす意味</li> </ol>	<p>オリエンテーション</p> <p>臨地実習 (病院)</p>	



	<p>4) 必要な援助 5) スタッフと共に援助 6) 実践した援助の評価</p> <p>実習目標 3</p> <p>1) 発言・動作・表情の意味 2) 自分の発言・動作・表情が対象に与える影響 3) 一貫した対応の努力 4) ペースを認める努力 5) 自己洞察</p> <p>実習目標 4</p> <p>1) 事故防止のための看護 2) 閉鎖環境・隔離室使用における看護 3) 代理行為時の看護</p>		
1 日間	<p>&lt; 社会復帰施設での実習 &gt;</p> <p>実習目標 1</p> <p>1) 社会復帰施設の意義</p> <p>実習目標 2</p> <p>1) 「一日の過ごし方」「他の人との関わりの状況」「物事への取り組み方」「社会復帰への考え方」</p> <p>実習目標 3</p> <p>1) スタッフのかかわり</p>	(精神科デイケア)	
半日間	<p>&lt; 社会復帰施設での見学実習 &gt;</p> <p>1) 社会復帰施設とスタッフ(職員)の役割</p>	(生活訓練施設など)	
使用テキスト		評価方法	
詳細は「臨地実習要項」参照		1. 実習評価表に基づき実施	

在宅看護論：臨地実習			
科目名	必修	担当者	
在宅看護実習 I		専任教員	実習指導教員
年次・開講時期	時間数／単位数	授業の種類	
3年次・前期・後期	45時間／1単位	臨地実習	
<p>臨地実習の概要と達成目標</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>入院と在宅を結ぶ看護活動や支援について学ぶ。</p> <p>地域で生活している人の健康の保持・増進・疾病予防のための保健活動や支援について学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院における地域連携の活動の実際を知り、看護職の役割を理解する。</li> <li>2. 院調整中の患者および家族に対し、退院後の生活を送るための支援を考える。</li> <li>3. 地域における保健活動の意義を考察できる。</li> <li>4. 地域で療養する人の保健・医療・福祉の連携と社会資源の活用を理解する。</li> </ol>			
授業回数	実習内容	教授方法	備考
2日間 1週間	<p>実習目標 1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病院における地域連携の位置づけ</li> <li>2) 病院における地域連携の役割</li> <li>3) 退院調整看護師の役割</li> </ol> <p>実習目標 2</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象の常在条件</li> <li>2) 対象の介護状況</li> <li>3) 対象の病理的状态</li> <li>4) 対象の社会資源の利用状況・予定</li> <li>5) 対象の基本的欲求</li> <li>6) 対象の情報を照合比較</li> <li>7) 基本的欲求の充足状況</li> <li>8) 現在の退院するうえでの問題</li> <li>9) 対象に必要な支援の方向性</li> <li>10) 退院に向けて必要な支援</li> <li>11) 対象及びその家族に応じたコミュニケーション</li> </ol> <p>実習目標 3</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域における保健活動の意義</li> </ol>	<p>オリエンテーション</p> <p>臨地実習</p> <p>(病院内 地域連携センター)</p>	
1日	<p>実習目標 4</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域包括ケアシステムにおける看護職の役割</li> </ol>	(フィールド学習)	

使用テキスト	評価方法
詳細は「臨地実習要項」参照	1. 実習評価表に基づき実施

在宅看護論：臨地実習			
科目名	在宅看護実習 II	必修	担当者 専任教員 実習指導教員
年次・開講時期	3年次・前期・後期	時間数／単位数	授業の種類
		45時間／1単位	臨地実習
臨地実習の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>訪問ケースの訪問看護サービスを通して、在宅看護について学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訪問看護の対象及び家族をその生活から理解する。</li> <li>2. 在宅で療養する対象に必要な援助の実際が理解できる。</li> <li>3. 訪問看護の在り方について理解できる。</li> </ol>			
授業回数	実習内容	教授方法	備考
1日半 1週間	<p>実習目標 1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 訪問ケースの常在条件</li> <li>2) 訪問ケースの介護状況</li> <li>3) 訪問ケースの要介護度</li> <li>4) 訪問ケースの病理的状态</li> <li>5) 訪問ケースの訪問看護指示書</li> <li>6) 訪問ケースの訪問看護の目的</li> <li>7) 訪問ケースの社会資源の利用状況</li> <li>8) 訪問ケースの基本的欲求</li> <li>9) 介護上の問題の抽出</li> <li>10) 情報を照合比較</li> <li>11) 基本的欲求の充足状況</li> <li>12) 必要な援助</li> </ol> <p>実習目標 2</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 訪問ケースの行動計画</li> <li>2) 訪問ケースに必要な援助</li> <li>3) 実施前・中・後の観察</li> <li>4) 対象及びその家族とのコミュニケーション</li> <li>5) 適切な服装・身だしなみ・言葉遣い・マナー</li> <li>6) カンファレンスでの意見交換</li> </ol> <p>実習目標 3</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 訪問看護の在り方</li> </ol>	<p>オリエンテーション</p> <p>臨地実習</p> <p>(訪問看護ステーション)</p>	

使用テキスト	評価方法
詳細は「臨地実習要項」参照	1. 実習評価表に基づき実施

看護の統合と実践：臨地実習			
科目名	必修	担当者	
看護統合実習		専任教員	実習指導教員
年次・開講時期		時間数／単位数	授業の種類
3年次・後期		90時間／2単位	臨地実習
臨地実習の概要と達成目標			
<p>&lt;概要&gt;</p> <p>看護管理・複数の患者の看護展開・夜間における看護を経験し、知識・技術・態度を統合して、医療チームの一員としての看護実践を学ぶ。</p> <p>&lt;達成目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院組織における看護部の役割を理解し、様々な職種との連携、協力、調整の実際を学ぶ。</li> <li>2. 病棟看護チームの一員として、複数患者を受け持ち、必要とされる看護の優先順位を判断した看護活動計画に沿った実践を行う。</li> <li>3. 夜間の患者の生活の状態や状況を知る。</li> </ol>			
授業回数	実習内容		教授方法
3週間	<p>実習目標 1</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)看護管理の実際</li> <li>2)看護管理者の役割と業務</li> <li>3)看護チームと他職種との連携</li> <li>4)保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能</li> </ol> <p>実習目標 2</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)基本的欲求の充足状況</li> <li>2)必要な援助</li> <li>3)援助の優先順位</li> <li>4)看護チームに協力依頼</li> </ol> <p>実習目標 3</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)患者の夜間の生活の様子</li> <li>2)夜間における看護</li> <li>3)夜間の患者の安全確保</li> </ol>		<p>オリエンテーション</p> <p>臨地実習（病院）</p>
使用テキスト		評価方法	
詳細は「臨地実習要項」参照		1. 実習評価表に基づき実施	